

4 障害福祉サービスについて

(1) <入所・入院問16><在宅問20> 利用している障害福祉サービス

問. 次の中で利用している障害福祉サービスがありますか。
あてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

入所・入院している人では「生活介護」が31.5%で最も多く、次いで「自立訓練」(13.5%)、「就労継続支援(A型・B型)」(5.8%)、「療養介護」(5.2%)、「地域活動支援センター」(4.3%)などの順となっている。

在宅の人では、「補装具費支給」が16.5%で最も多く、次いで「地域活動支援センター」(14.3%)、「日常生活用具の給付または貸与」(12.3%)、「生活介護」(12.0%)、「移動支援」(10.9%)などの順となっている。(図表4-1-1)

【障害者手帳種別】

身体障害では入院で「生活介護」(31.3%)、在宅で「補装具費支給」(26.4%)、「日常生活用具の給付または貸与」(19.3%)が多く、知的障害では「生活介護」(入院50.7%、在宅26.0%)、「就労継続支援(A型・B型)」(在宅24.2%)が多い。精神障害では入院で「生活介護」と「自立訓練」(19.4%)、在宅で「地域活動支援センター」(45.6%)が多い。(図表4-1-3)

【年代・加齢】

年代が進むにつれ、在宅の身体障害では「利用していない」が、在宅の知的障害では「就労継続支援(A型・B型)」の割合が高くなる。在宅の精神障害では「相談支援」の割合が高くなる。

(図表4-1-7～図表4-1-9)

【その他】

視覚障害では、在宅で「移動支援」(51.6%)、「日常生活用具の給付または貸与」(45.1%)が多い。聴覚障害では、在宅で「コミュニケーション支援(手話通訳、要約筆記の派遣等)」(47.3%)が多い。(図表4-1-4～4-1-5)

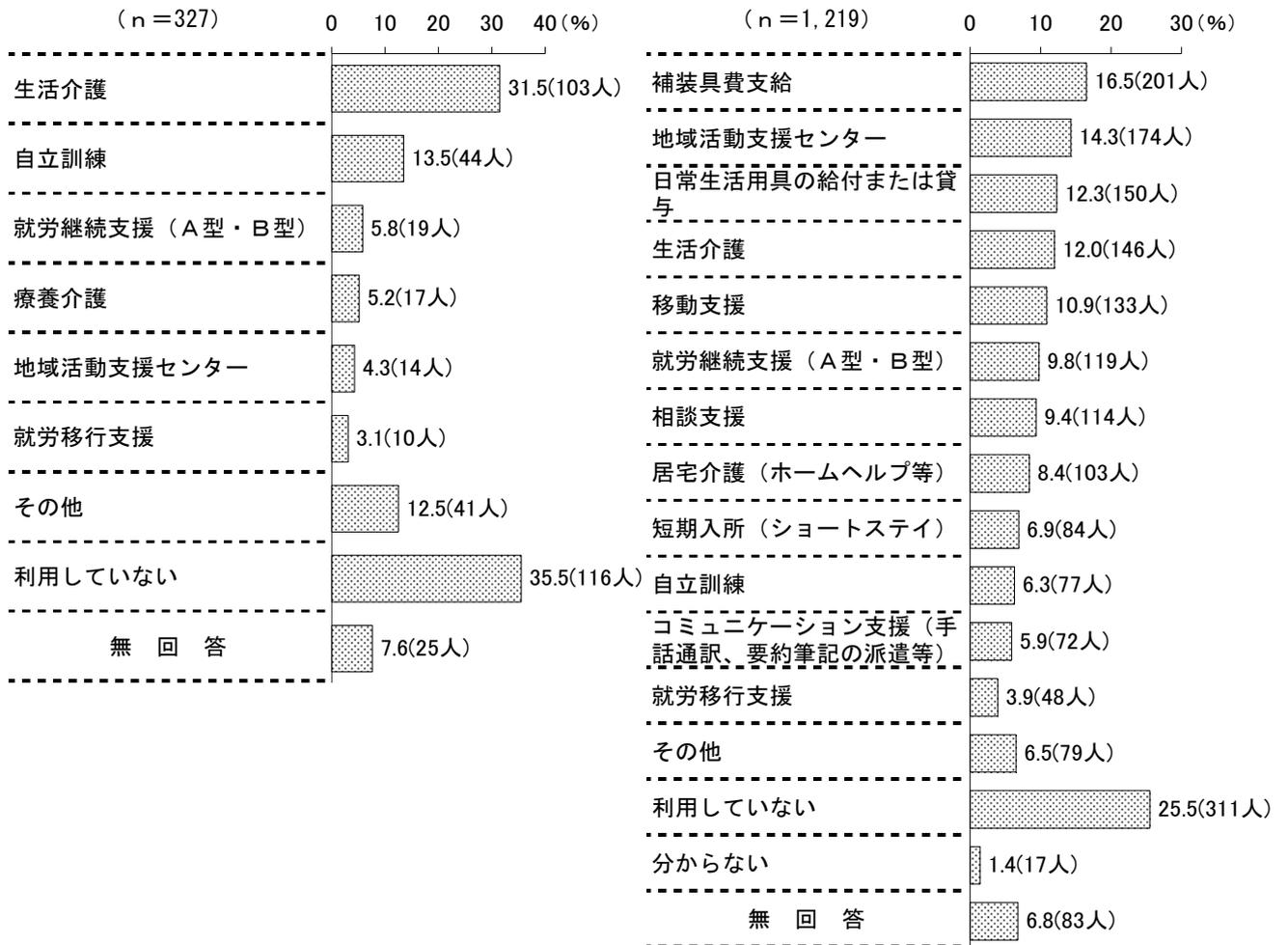
ひとり暮らしでは、「地域活動支援センター」(27.1%)、「居宅介護」(26.4%)が多い。

(図表4-1-6)

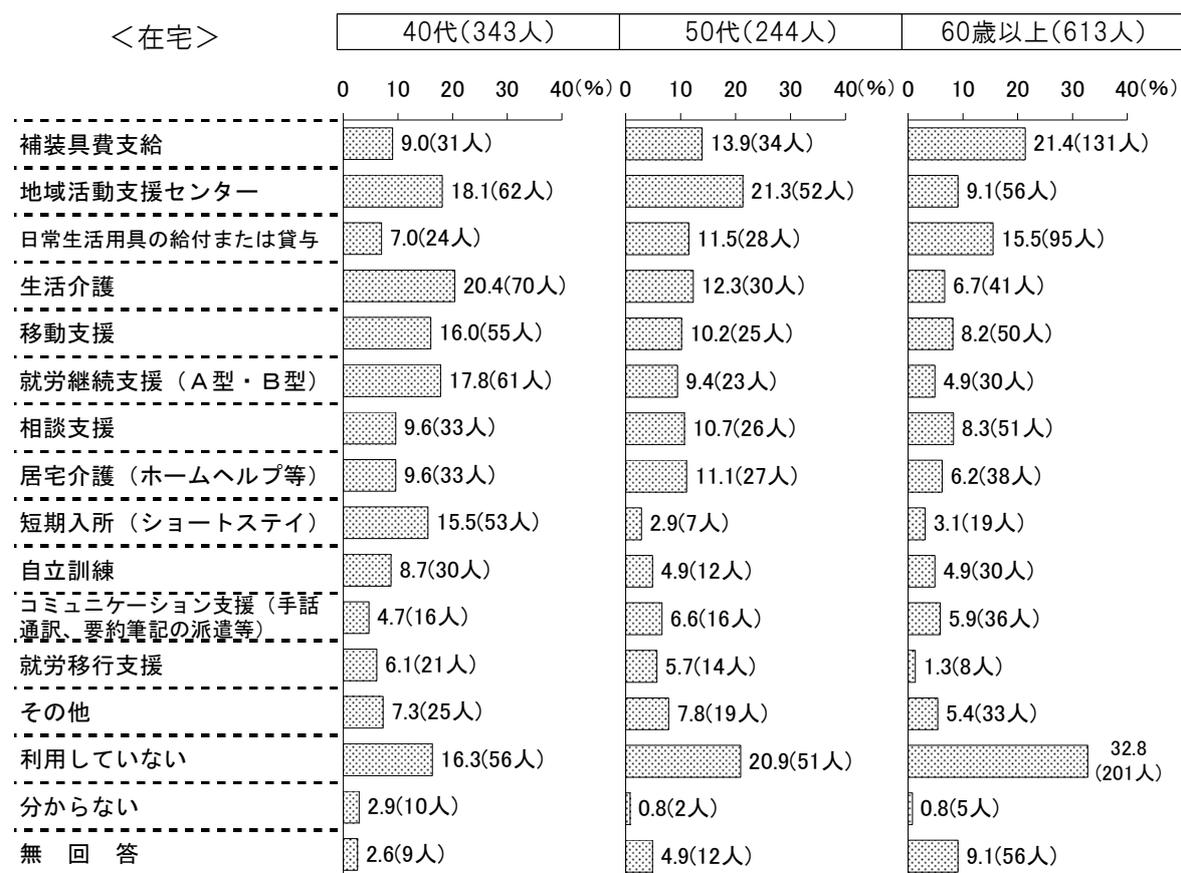
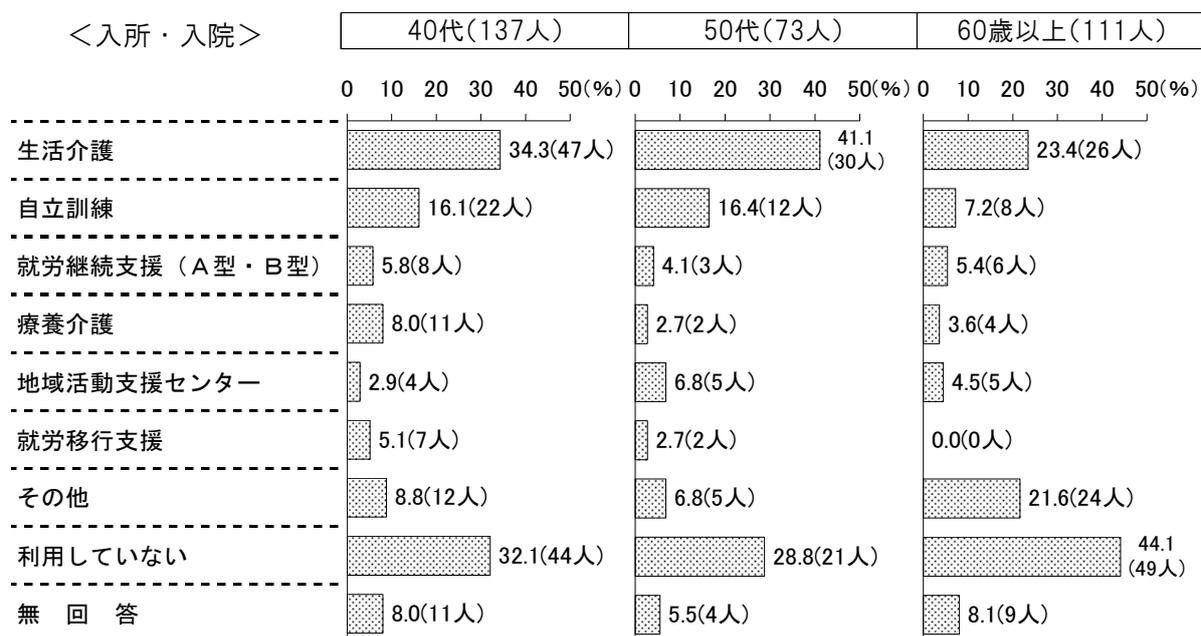
図表 4-1-1

<入所・入院している人>

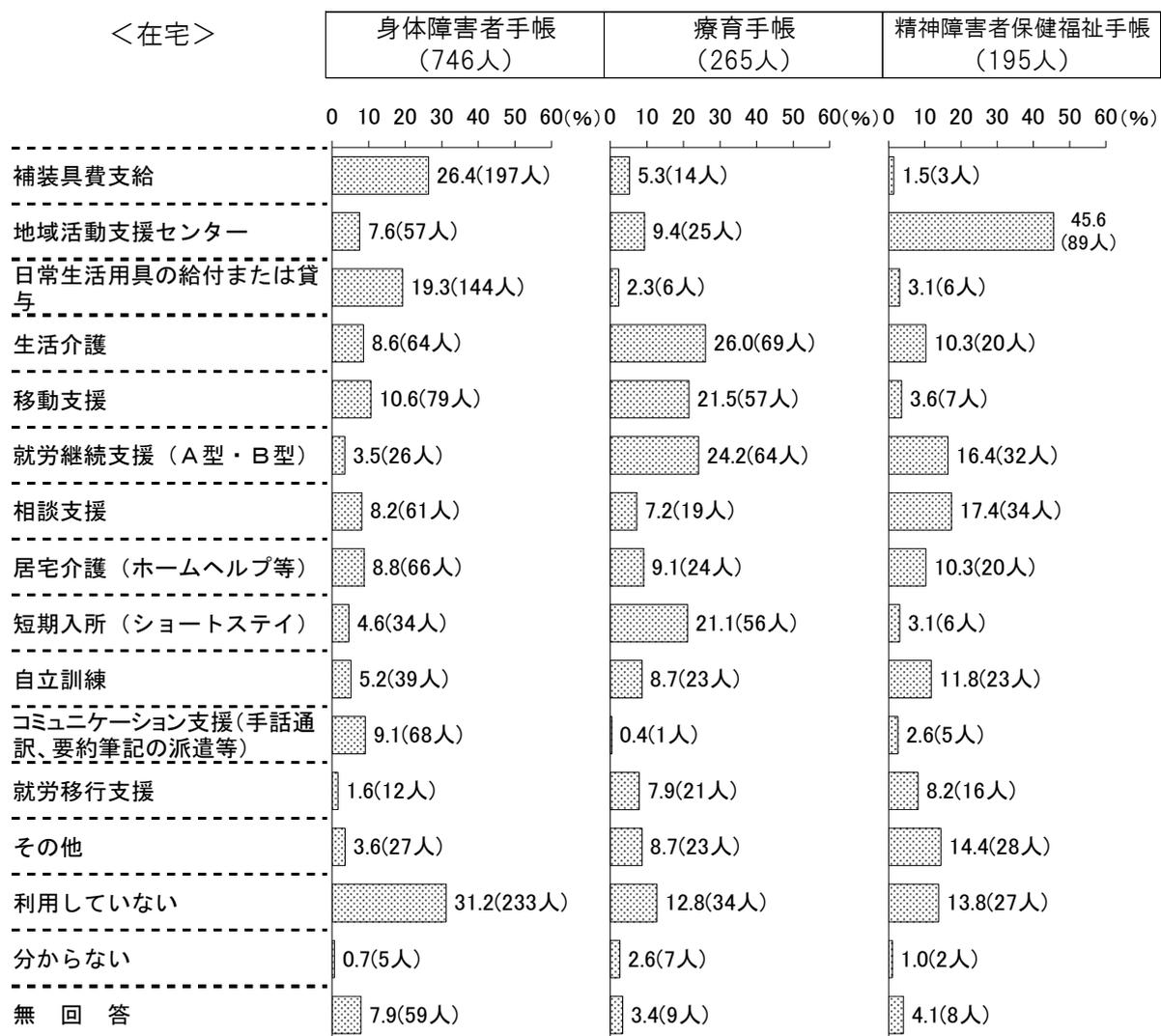
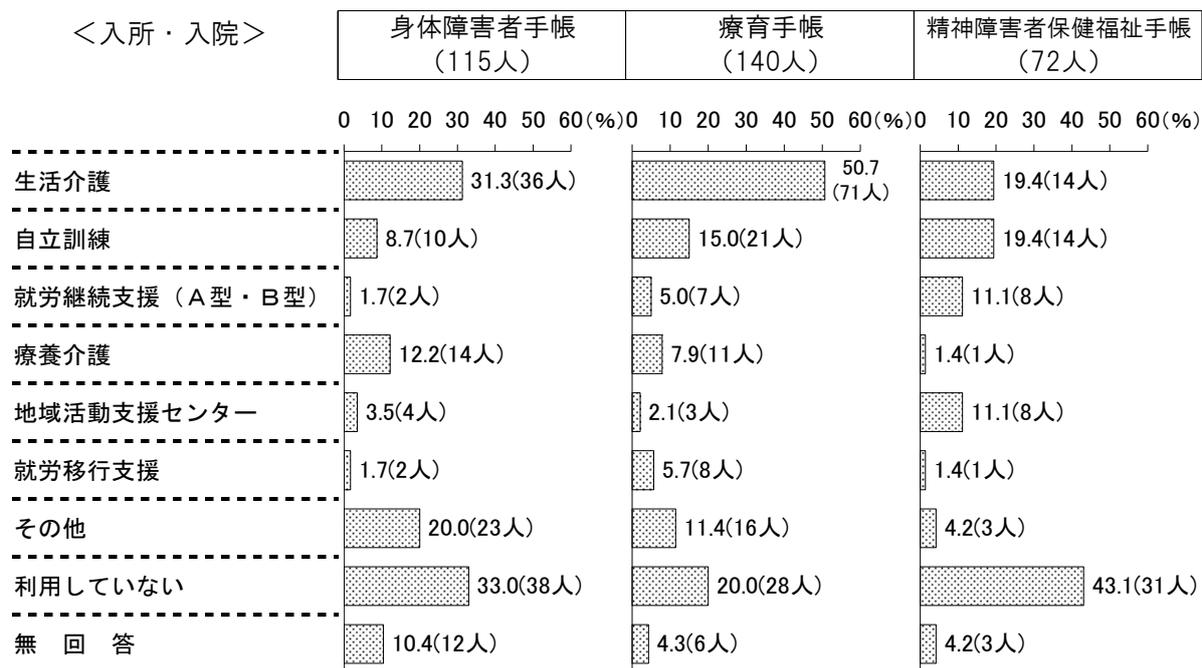
<在宅の人>



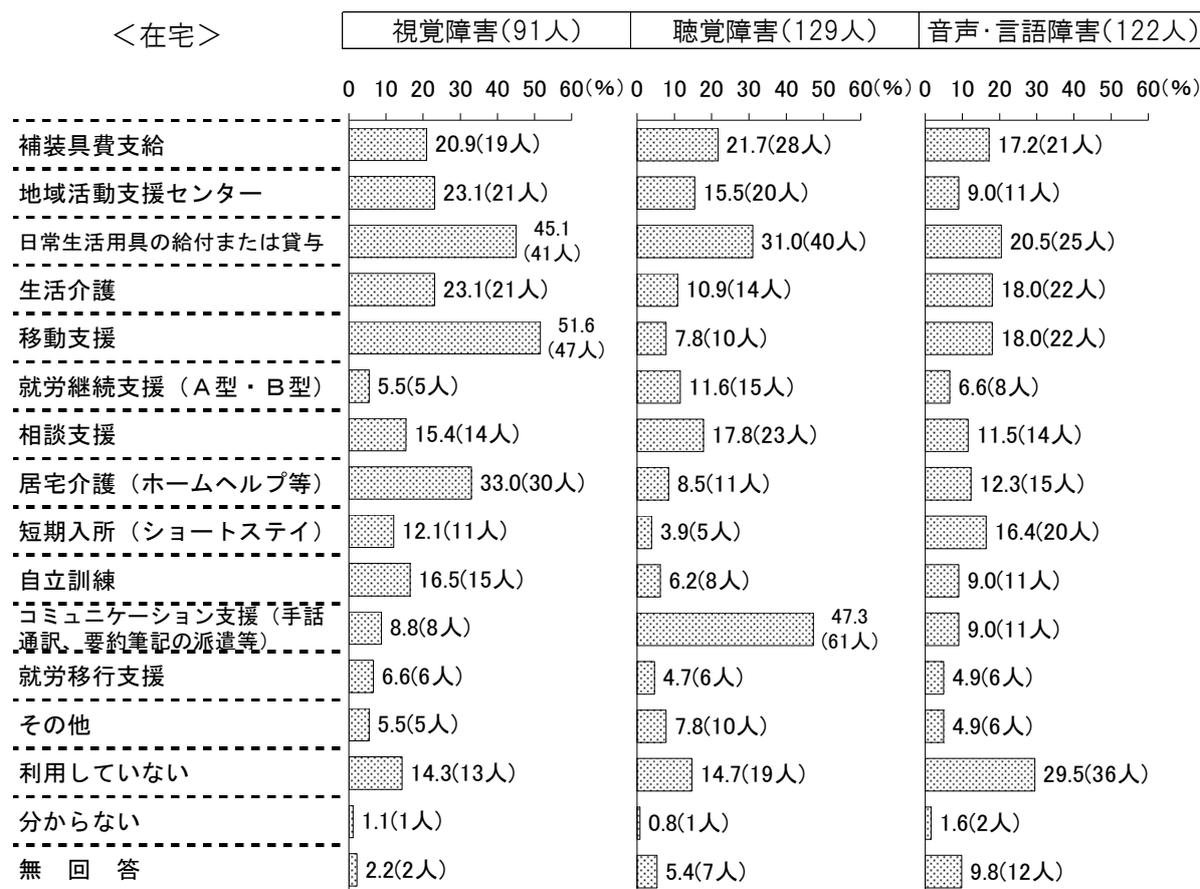
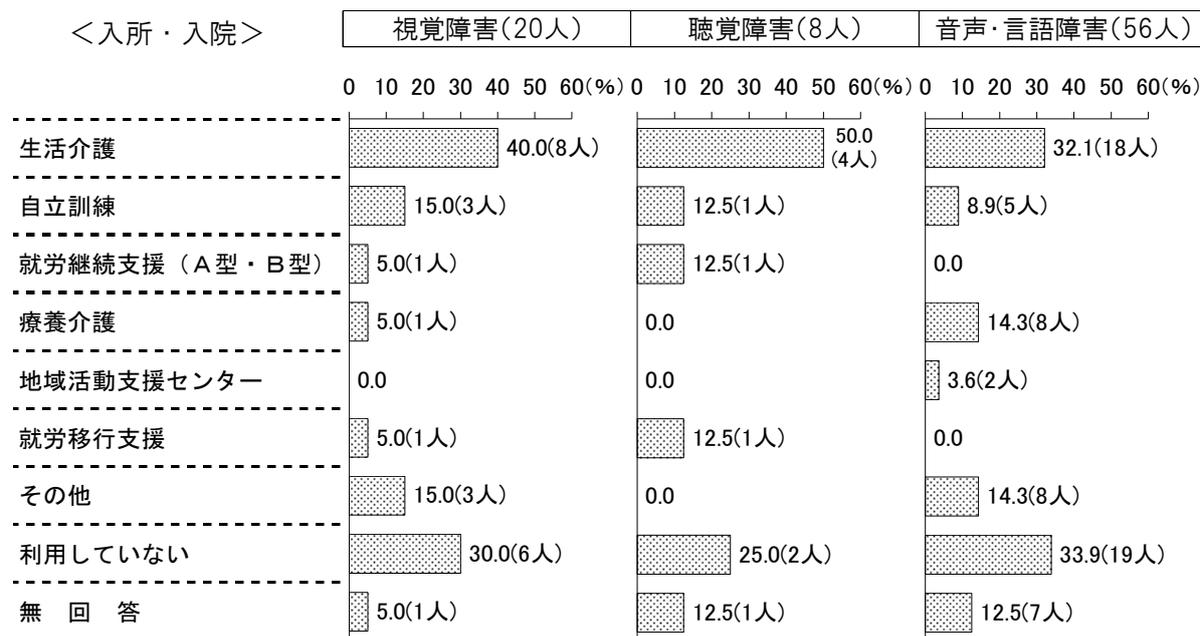
図表 4-1-2 利用している障害福祉サービス一年代別



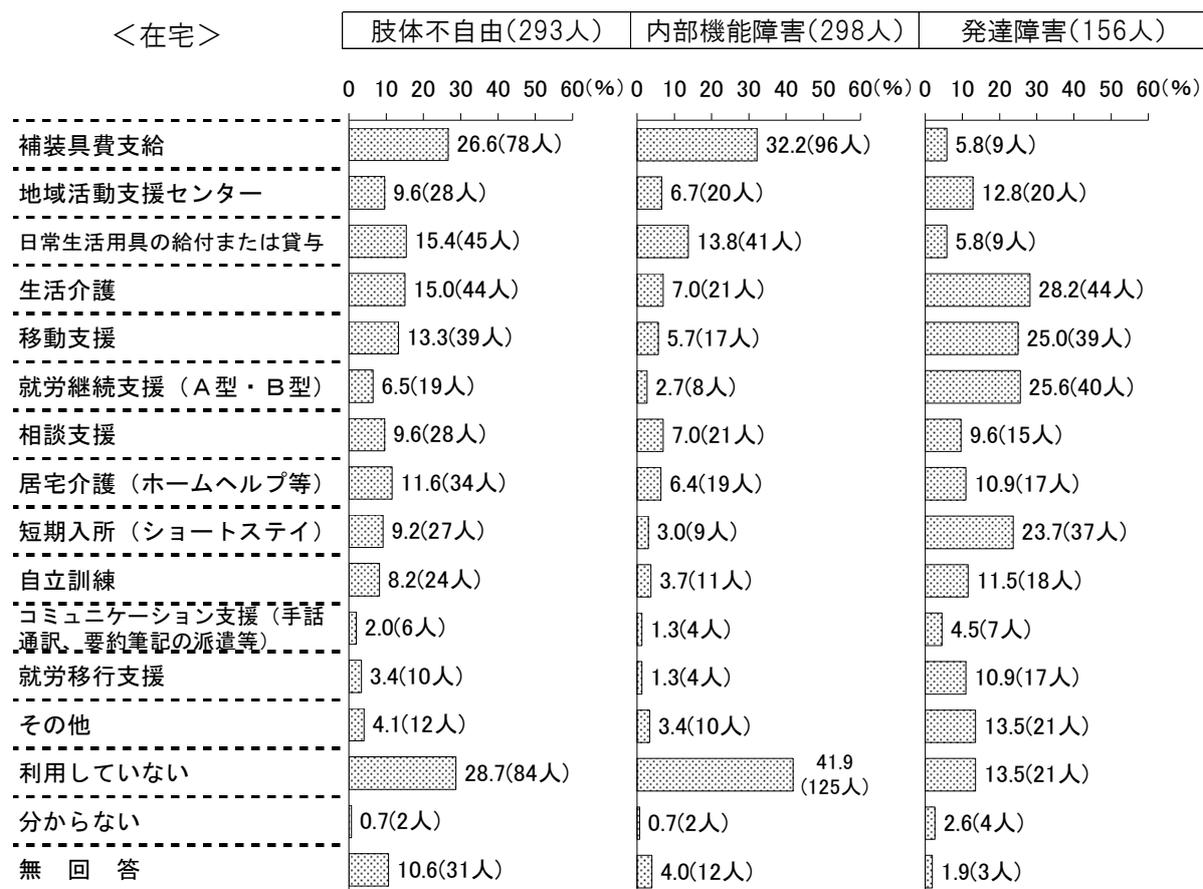
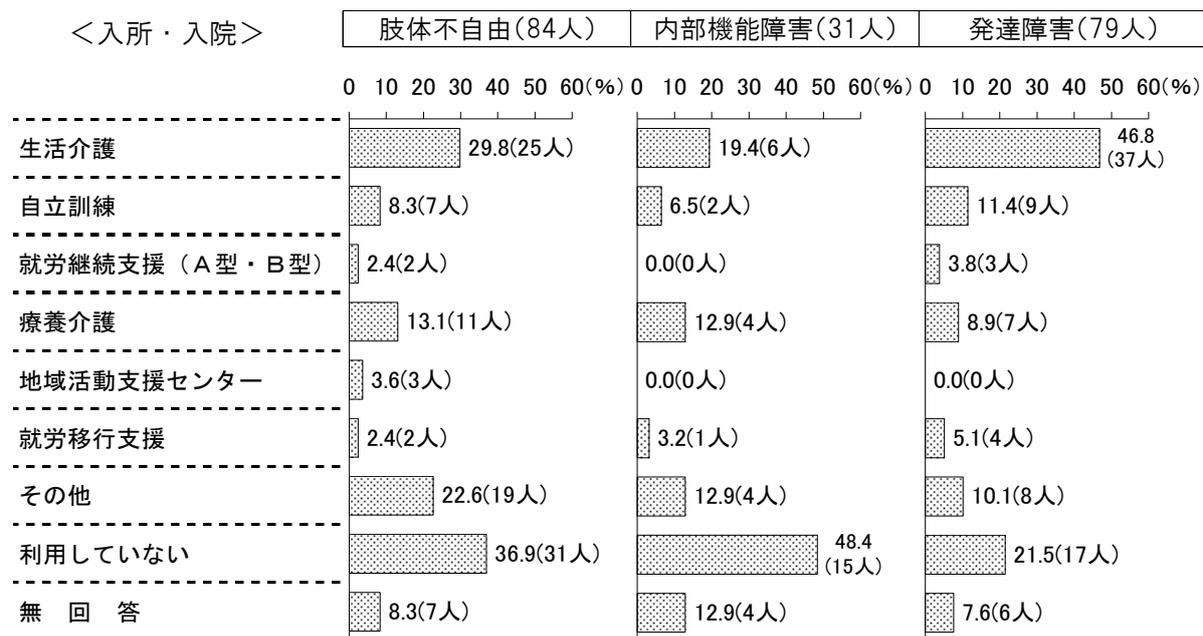
図表 4-1-3 利用している障害福祉サービス—障害者手帳種別



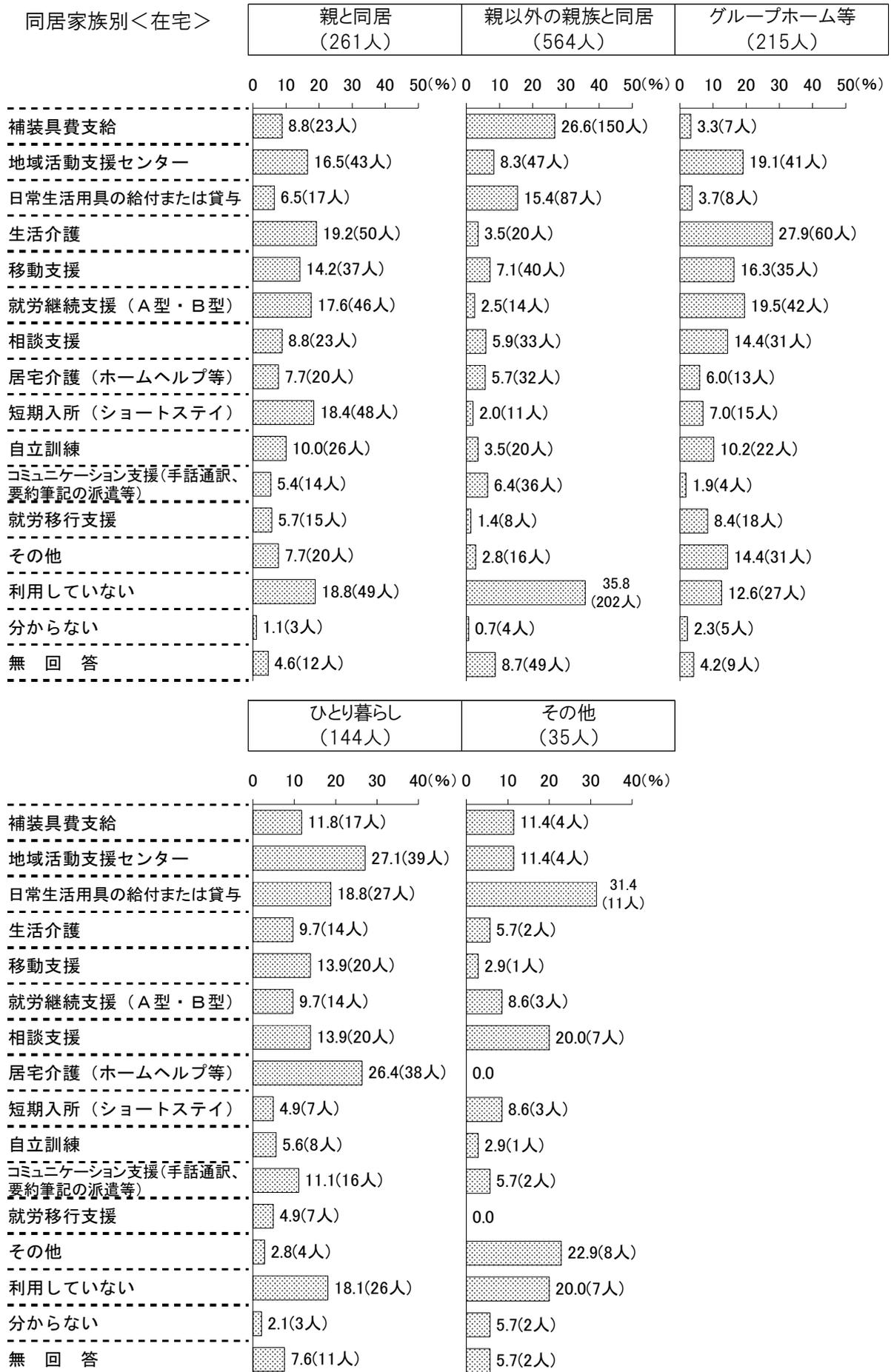
図表 4-1-4 利用している障害福祉サービス—障害種別（視覚障害、聴覚障害、音声・言語障害）



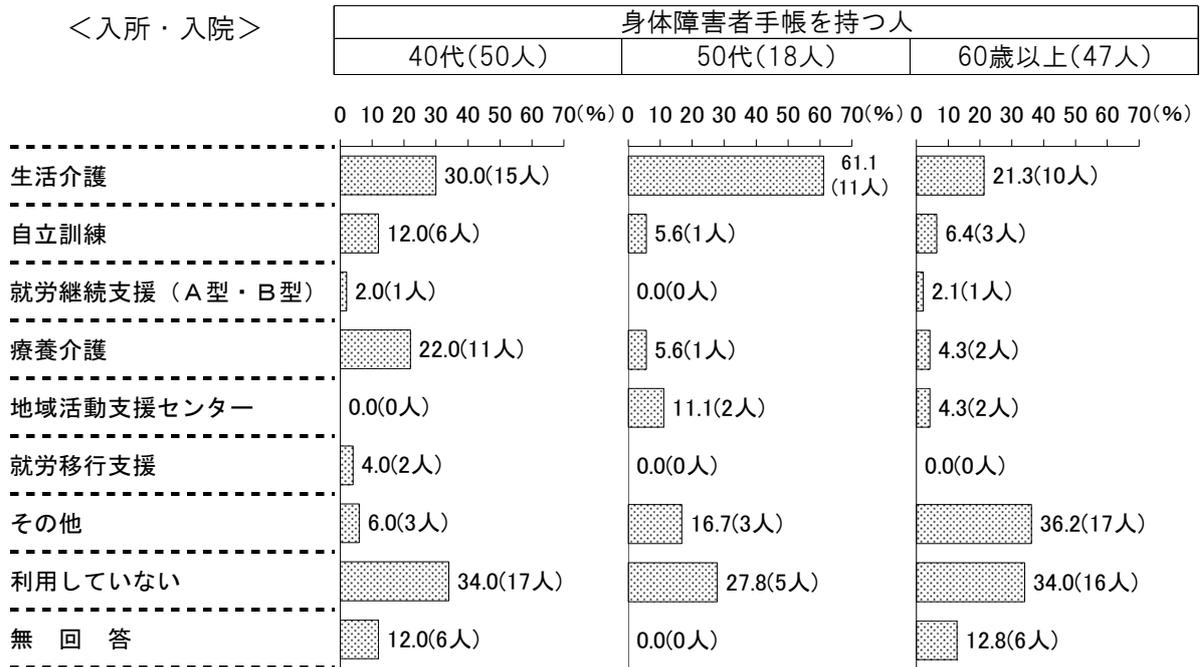
図表4-1-5 利用している障害福祉サービス—障害種別（肢体不自由、内部機能障害、発達障害）



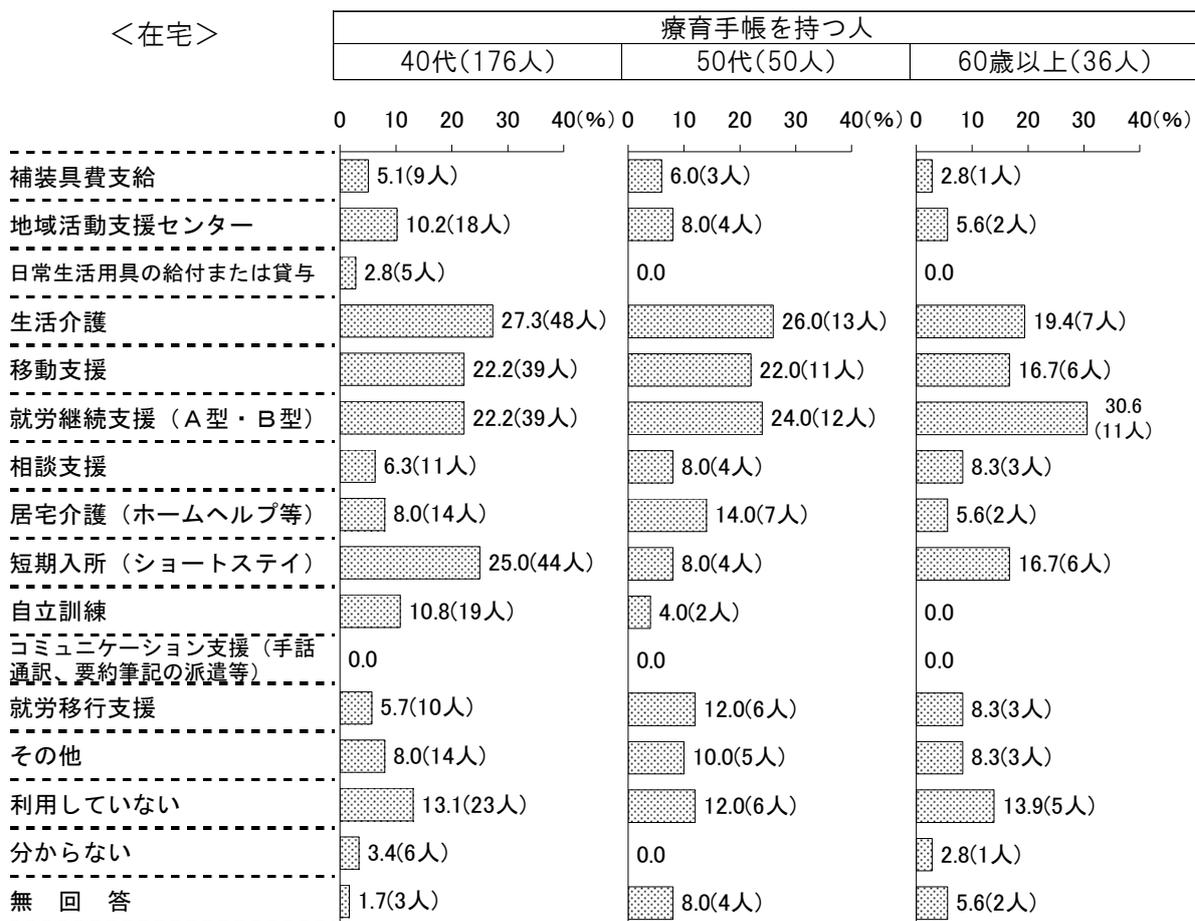
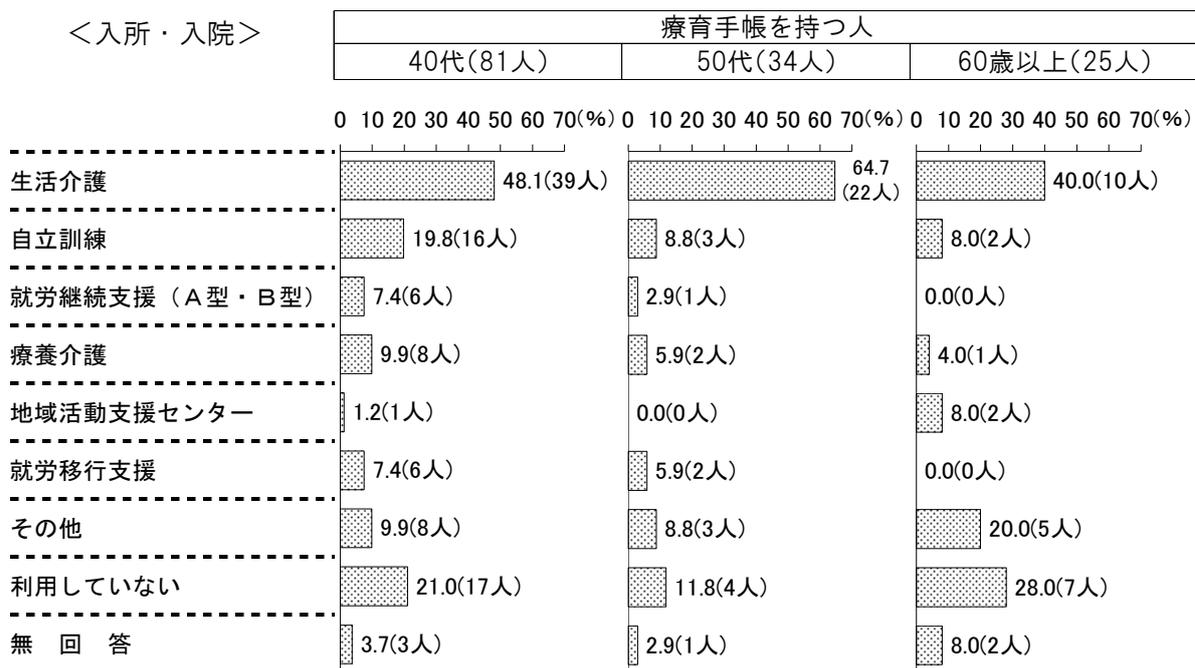
図表４－１－６ 利用している障害福祉サービス－同居家族別＜在宅＞



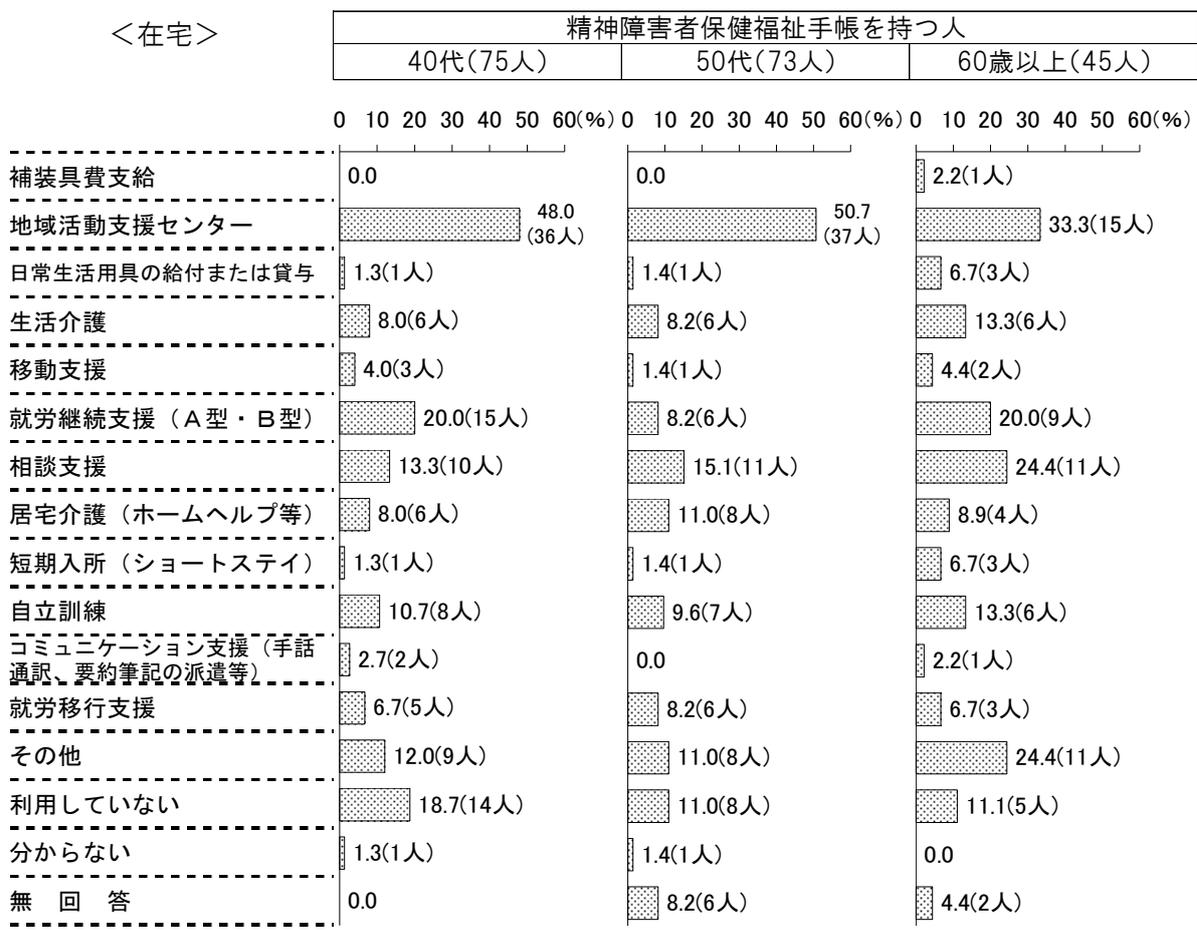
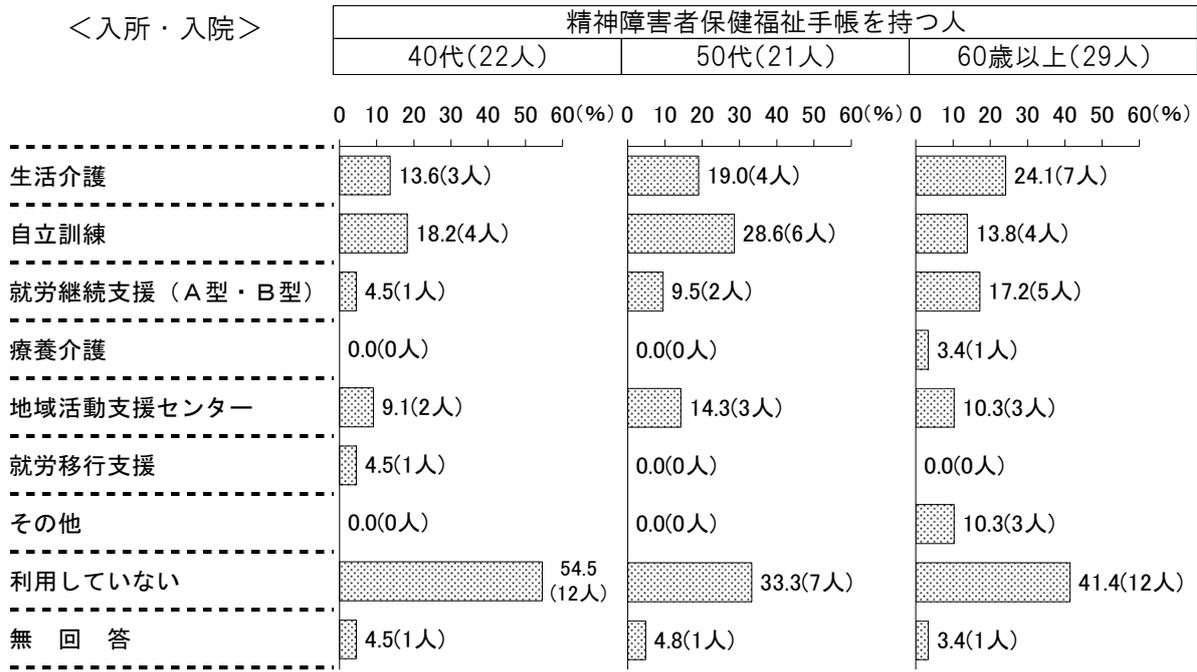
図表4-1-7 利用している障害福祉サービス—障害者手帳種別・年代別（身体障害者手帳）



図表4-1-8 利用している障害福祉サービス－障害者手帳種別・年代別（療育手帳）



図表4-1-9 利用している障害福祉サービス—障害者手帳種別・年代別(精神障害者保健福祉手帳)



(1-1) <入所・入院問17><在宅問21> 障害福祉サービスを利用する上で困ったこと

(利用している障害者福祉サービスがあると答えた方にお聞きします。)
 問. 障害福祉サービスを利用する上で困ったことはありますか。
 あてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

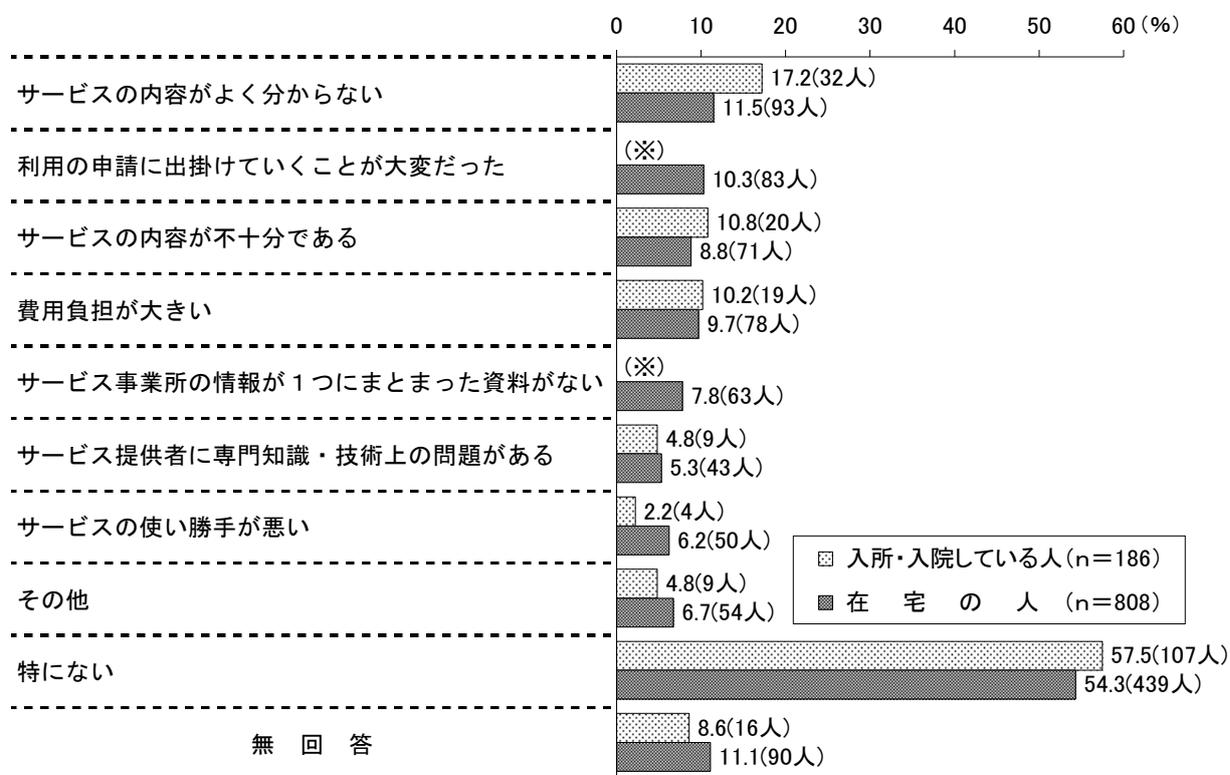
入所・入院している人では、「サービスの内容がよく分からない」が17.2%で最も多く、次いで「サービスの内容が不十分である」(10.8%)、「費用負担が大きい」(10.2%)などの順となっている。「特にない」は57.5%である。

在宅の人では、「サービスの内容がよく分からない」が11.5%で最も多く、次いで「利用の申請に出掛けていくことが大変だった」(10.3%)、「費用負担が大きい」(9.7%)、「サービスの内容が不十分である」(8.8%)、「サービス事業所の情報が1つにまとまった資料がない」(7.8%)などの順となっている。「特にない」は54.3%である。(図表4-1-10)

【障害者手帳種別】 大きな傾向の違いはみられない。

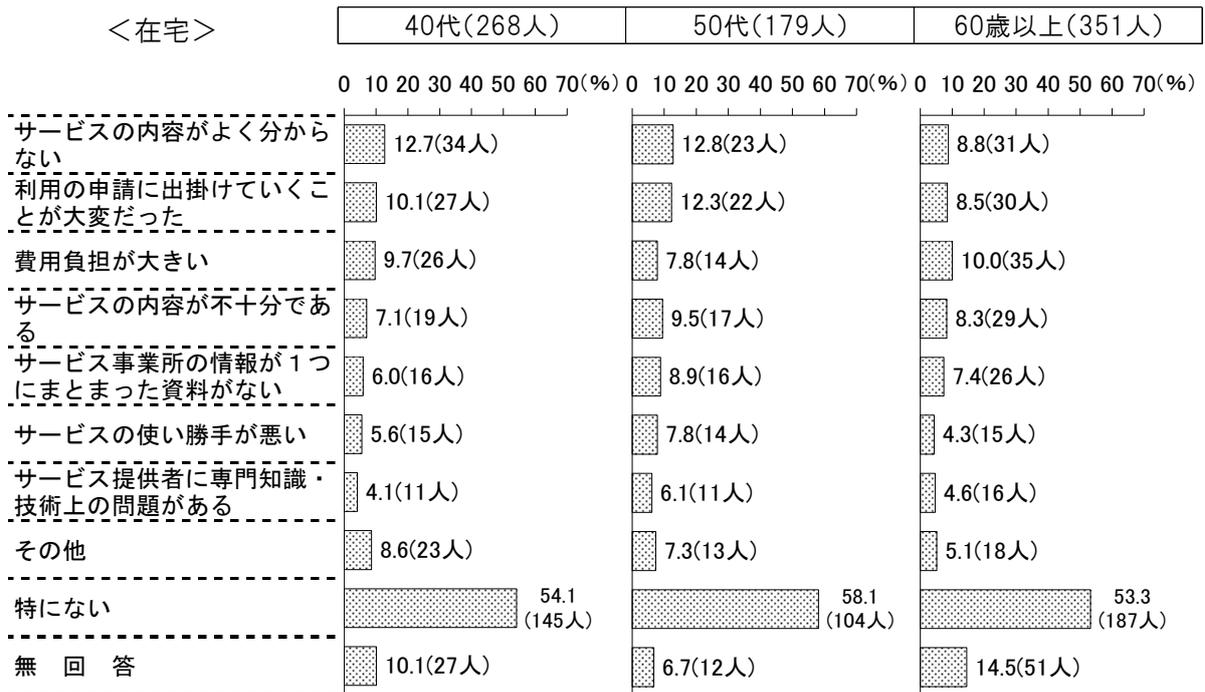
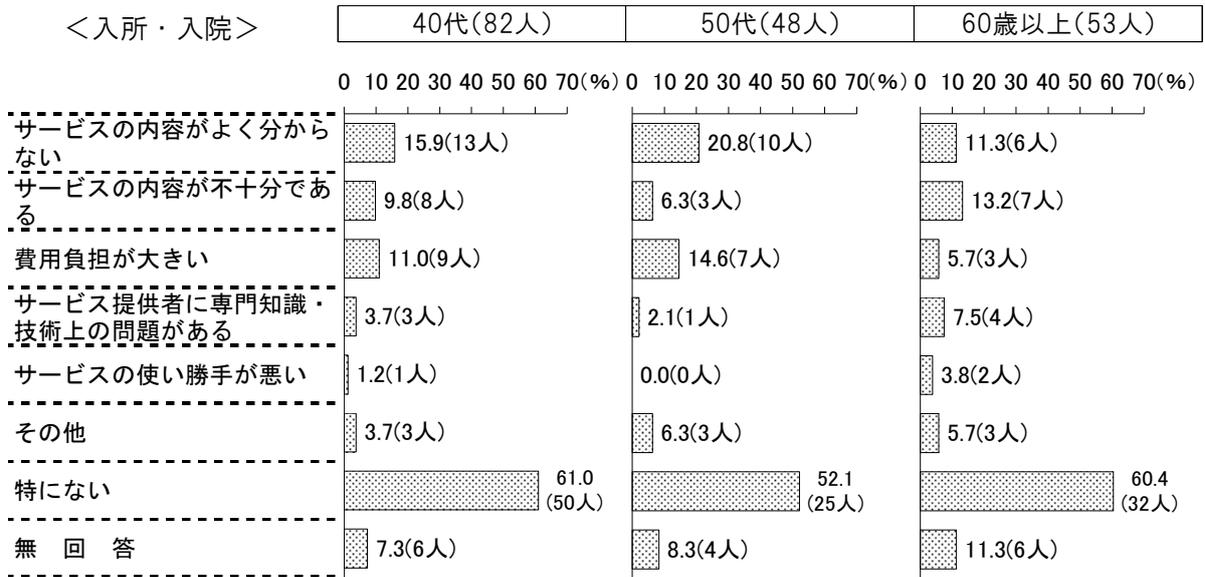
【年代・加齢】 大きな傾向の違いはみられない。

図表4-1-10

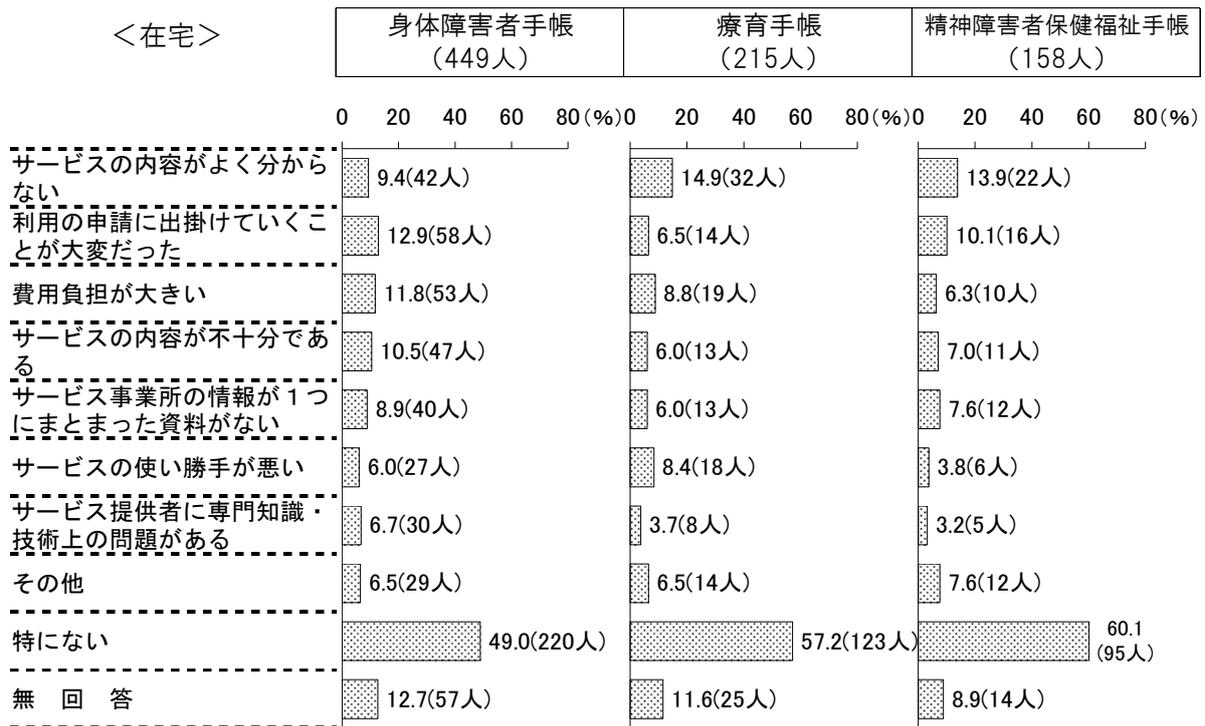
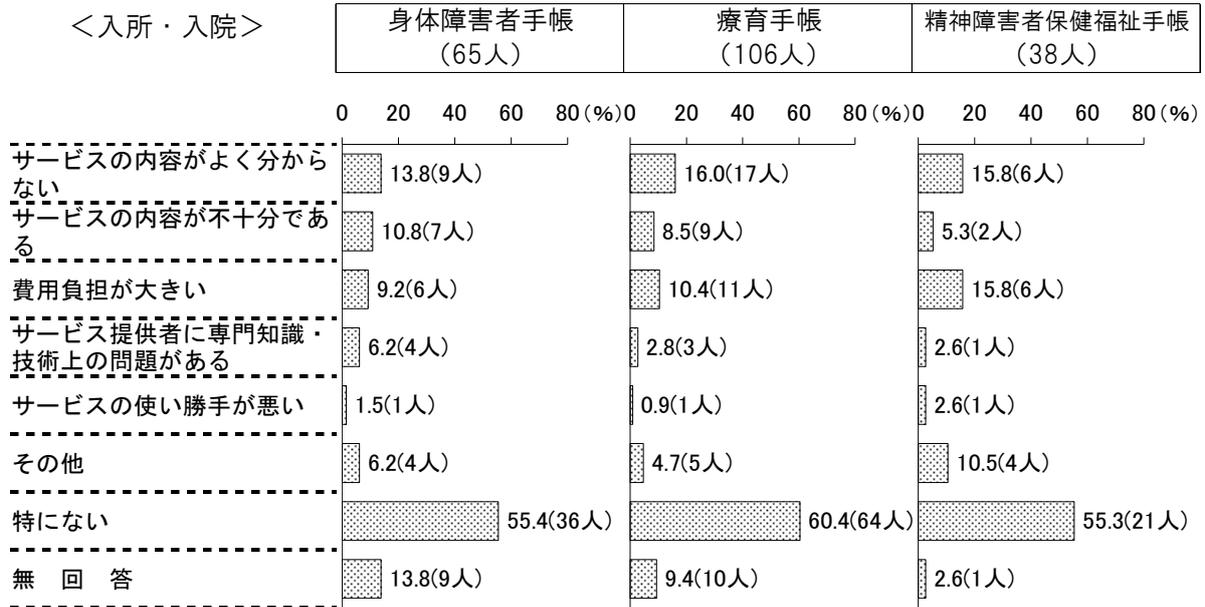


(※) の選択肢は、入所・入院している人の調査では省いている。

図表4-1-11 障害福祉サービスを利用する上で困ったこと一年代別

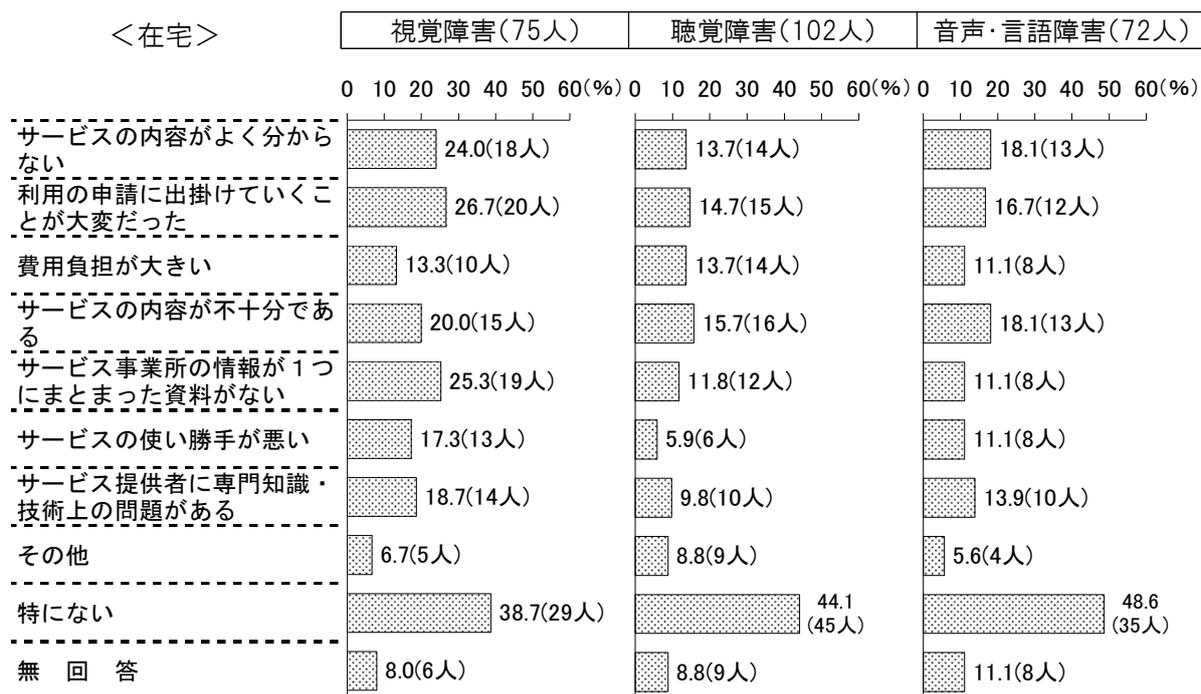
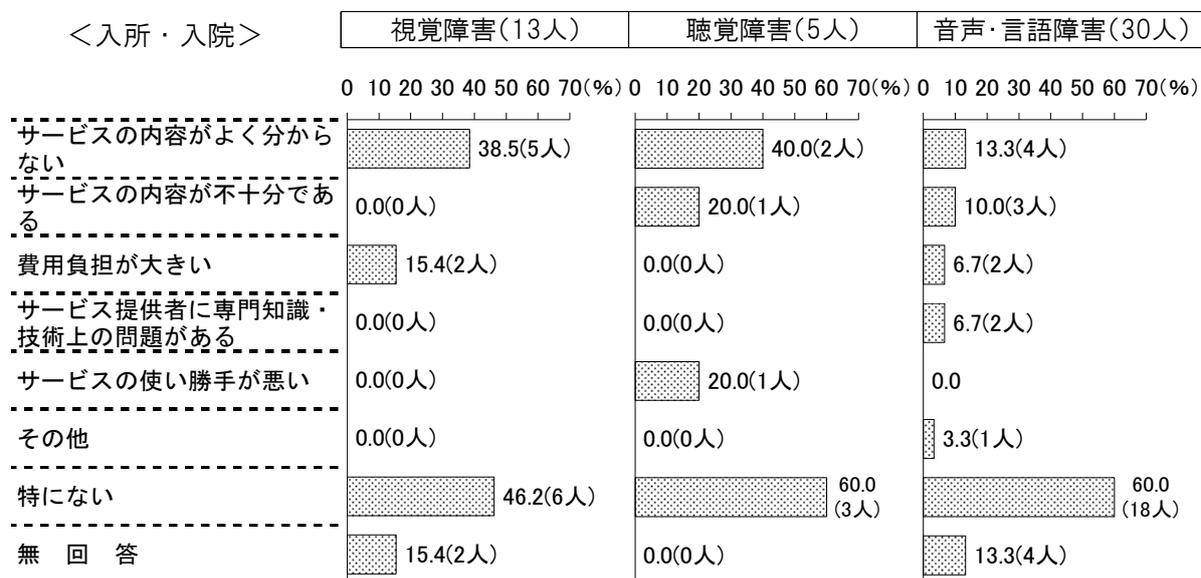


図表4-1-12 障害福祉サービスを利用する上で困ったこと－障害者手帳種別



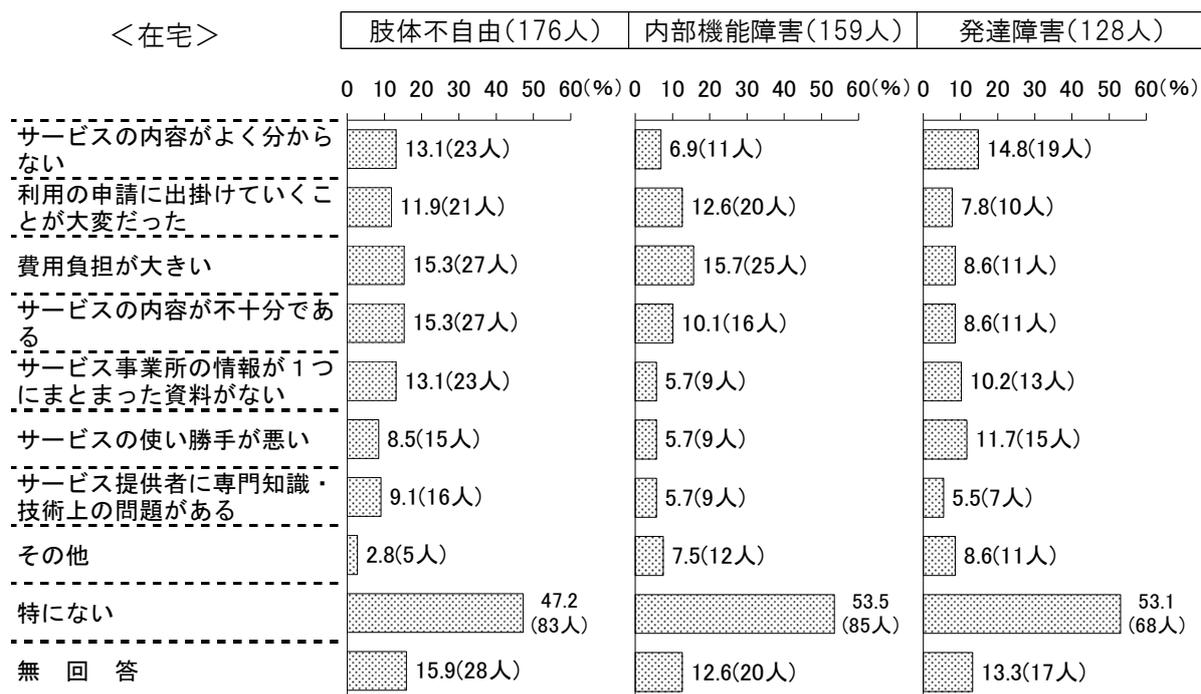
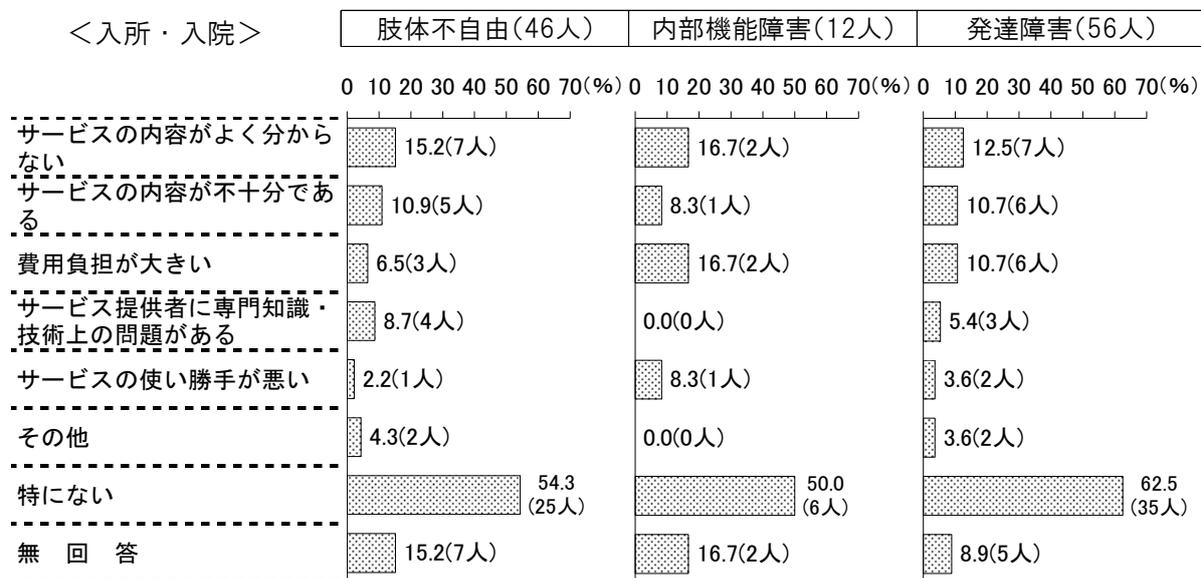
図表 4-1-13 障害福祉サービスを利用する上で困ったこと

—障害種別（視覚障害、聴覚障害、音声・言語機能障害）

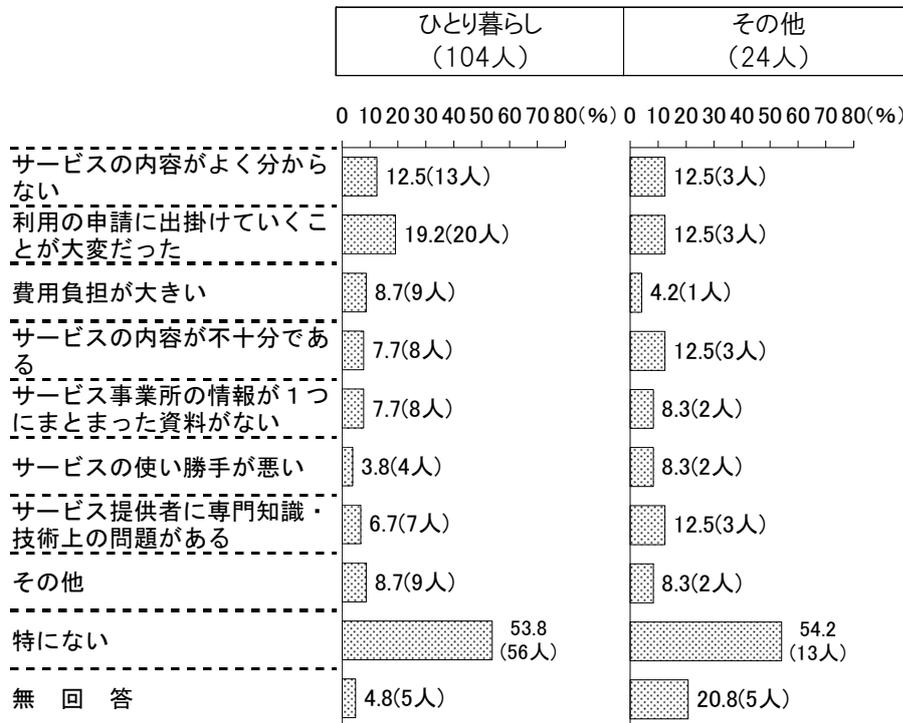
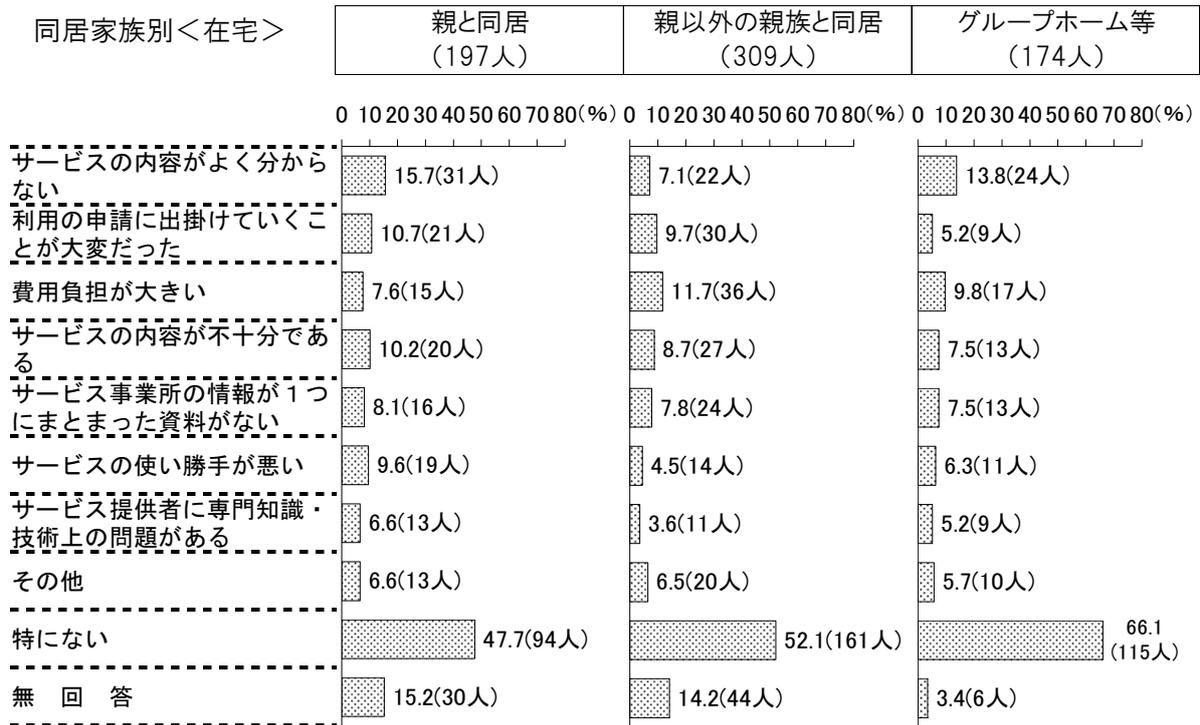


図表 4-1-14 障害福祉サービスを利用する上で困ったこと

－障害種別（肢体不自由、内部機能障害、発達障害）

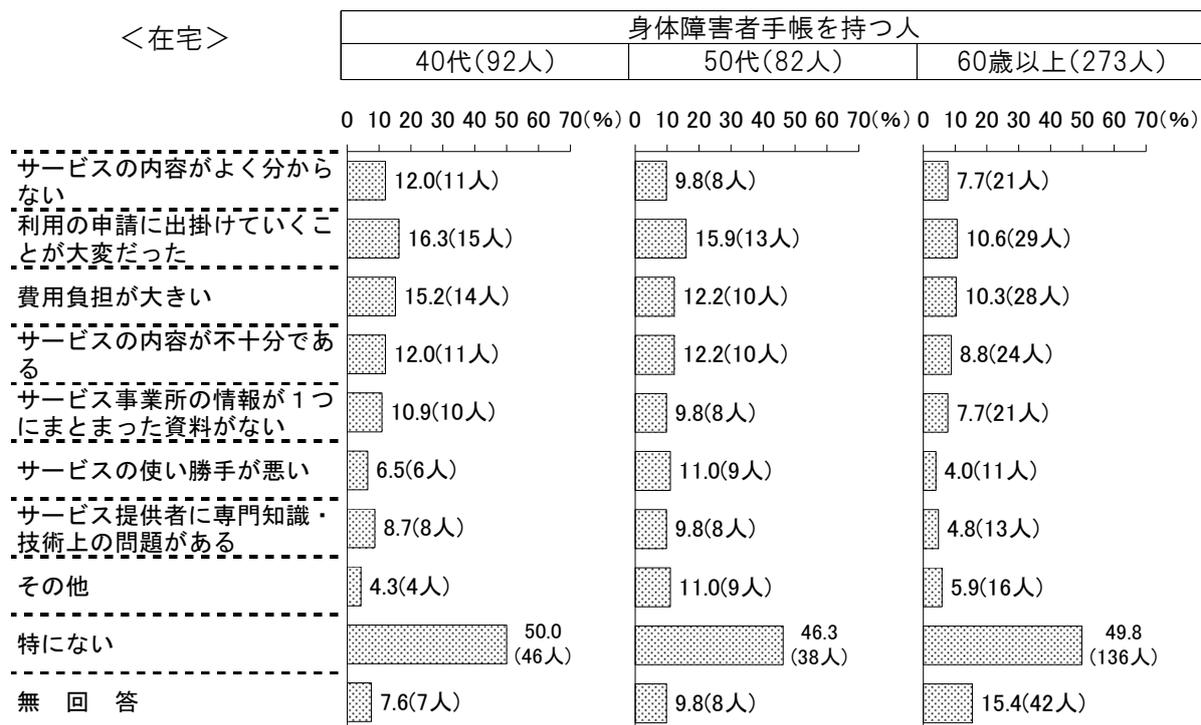
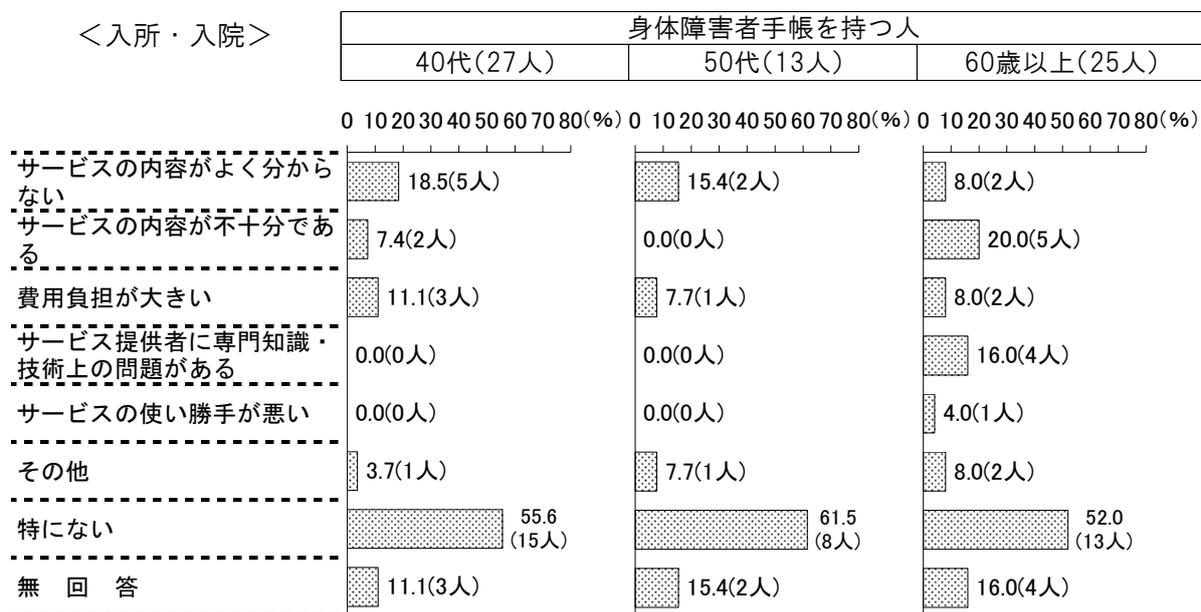


図表4-1-15 障害福祉サービスを利用する上で困ったこと一同居家族別<在宅>

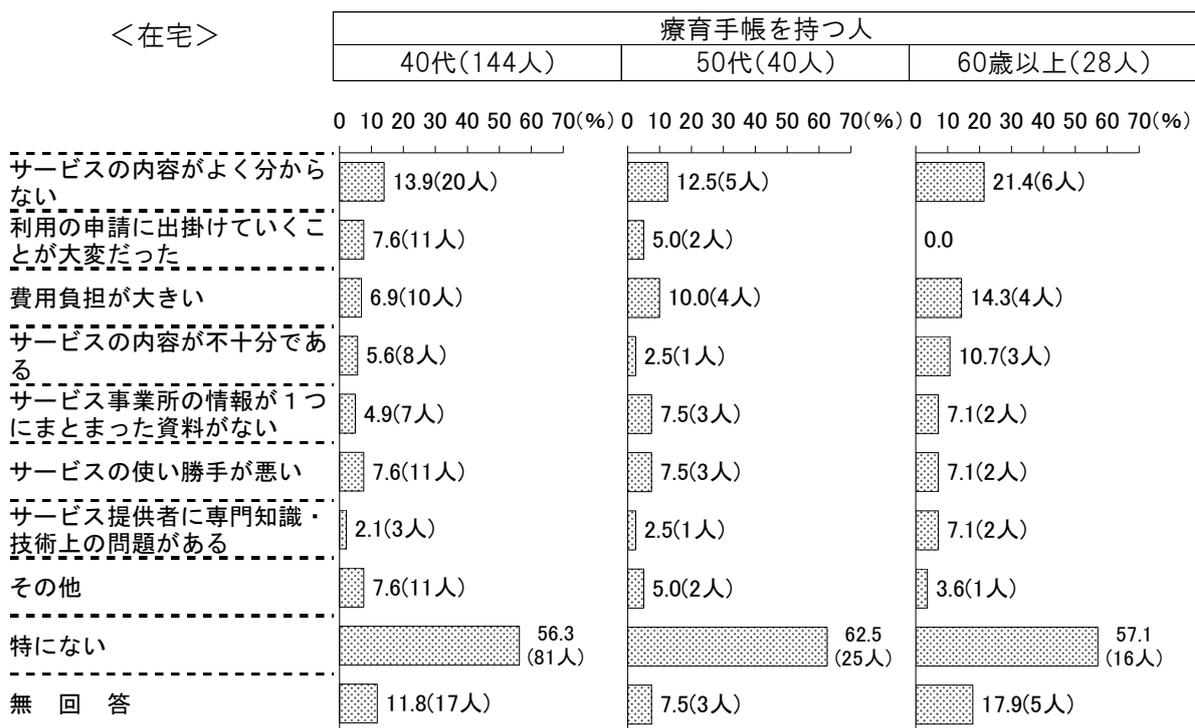
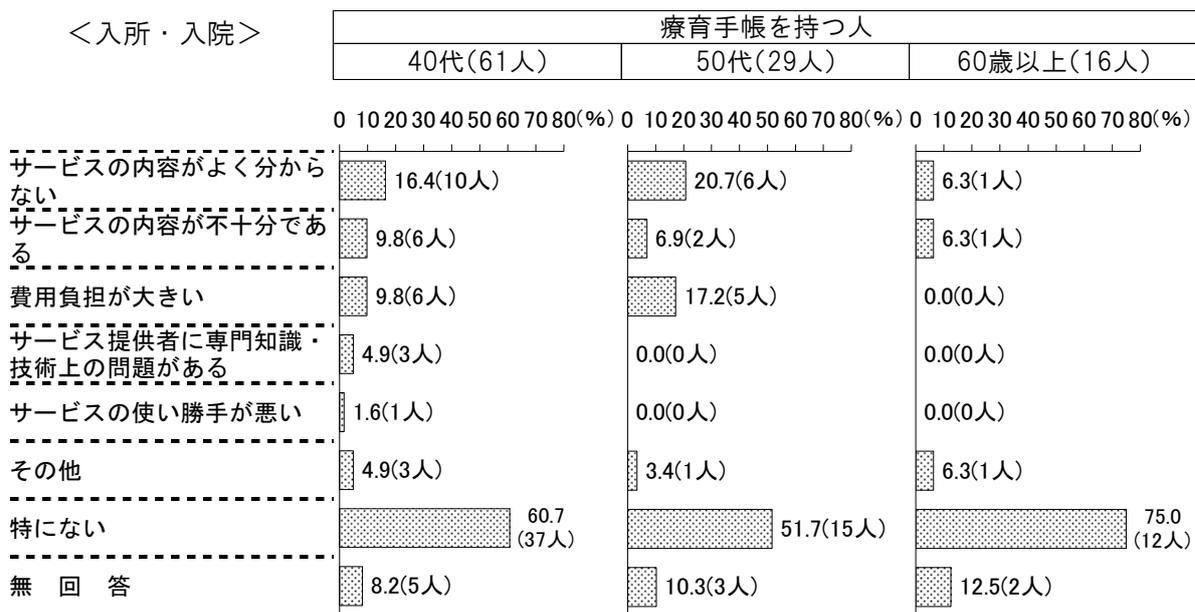


図表 4-1-16 障害福祉サービスを利用する上で困ったこと

— 障害者手帳種別・年代別（身体障害者手帳）

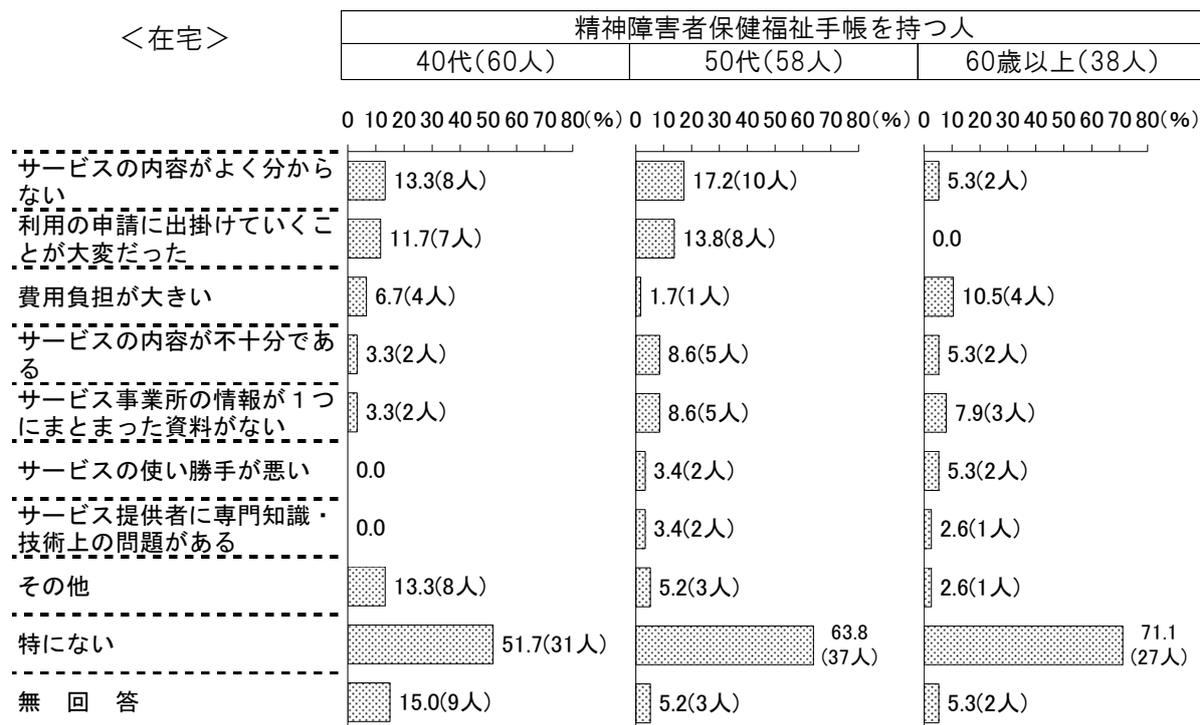
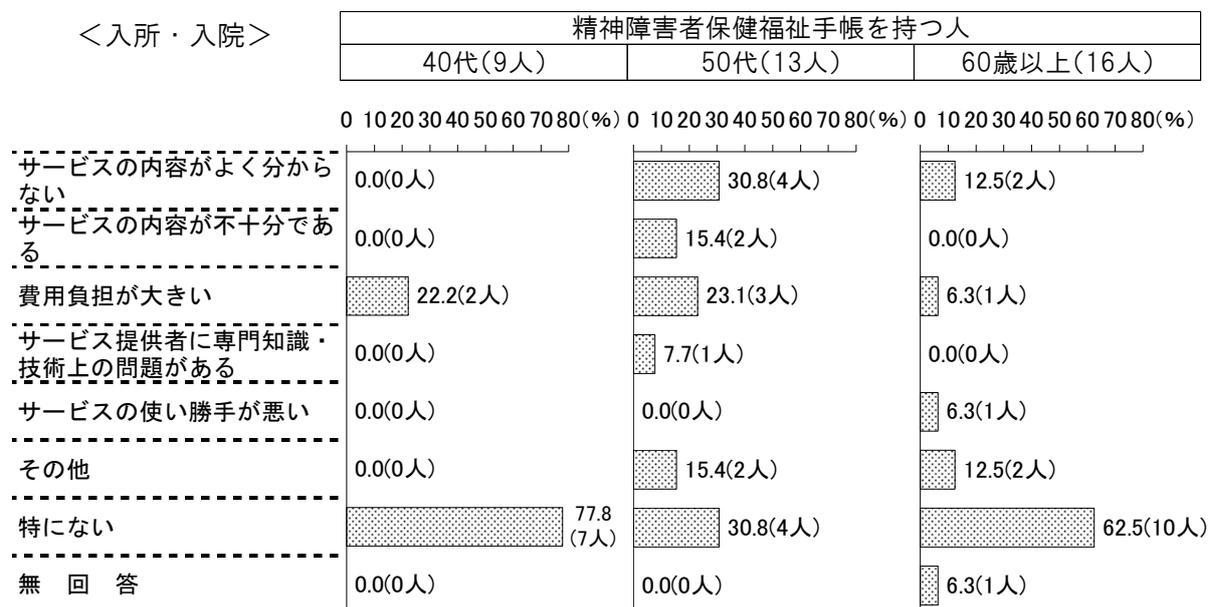


図表4-1-17 障害福祉サービスを利用する上で困ったこと—障害者手帳種別・年代別（療育手帳）



図表 4-1-18 障害福祉サービスを利用する上で困ったこと

— 障害者手帳種別・年代別（精神障害者保健福祉手帳）



(1-2) <入所・入院問18><在宅問22> 障害福祉サービスを利用していない理由

(障害者福祉サービスを「利用していない」と答えた方にお聞きします。)
 問. 障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。
 あてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

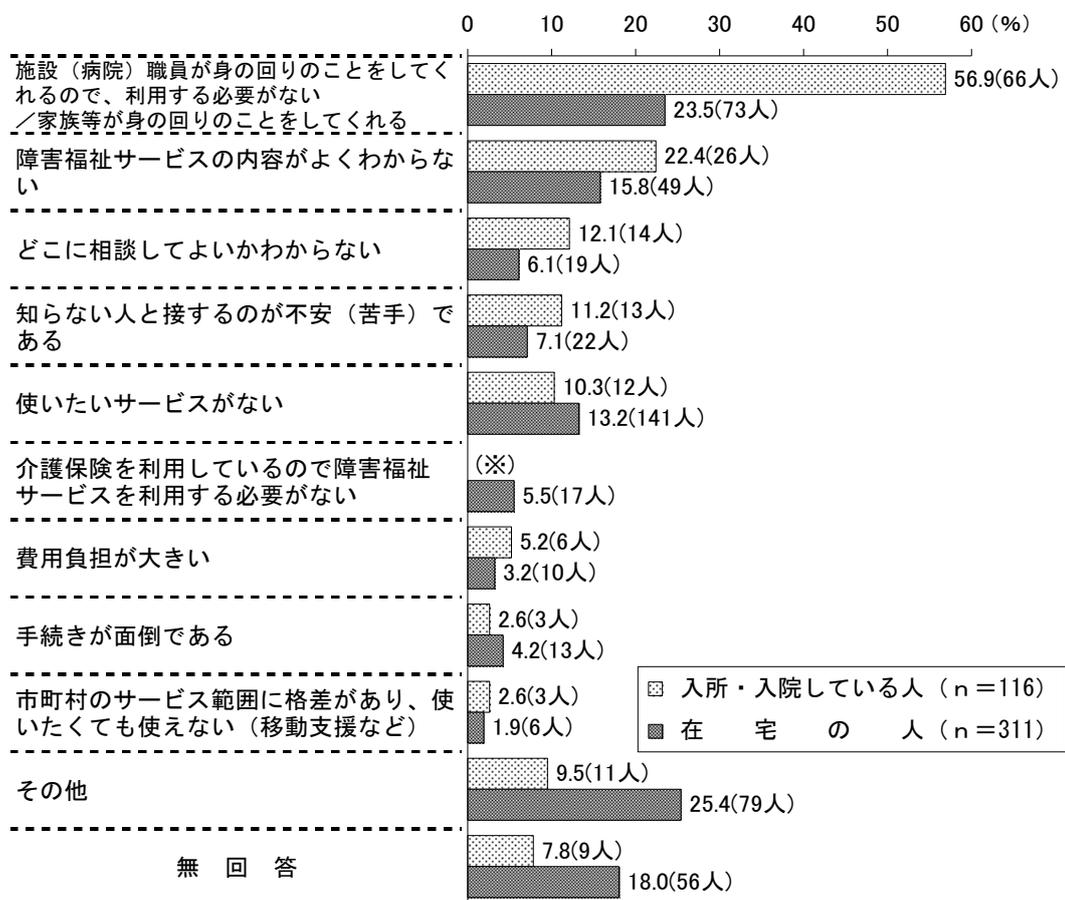
入所・入院している人では、「施設（病院）職員が身の回りのことをしてくれるので、利用する必要がない」が56.9%で最も多く、次いで「障害福祉サービスの内容がよくわからない」(22.4%)、「どこに相談してよいかよくわからない」(12.1%)などの順となっている。

在宅の人では、「家族等が身の回りのことをしてくれる」が23.5%で最も多く、次いで「障害福祉サービスの内容がよくわからない」(15.8%)、「使いたいサービスがない」(13.2%)などの順となっている。(図表4-1-19)

【障害者手帳種別】 大きな傾向の違いはみられない。

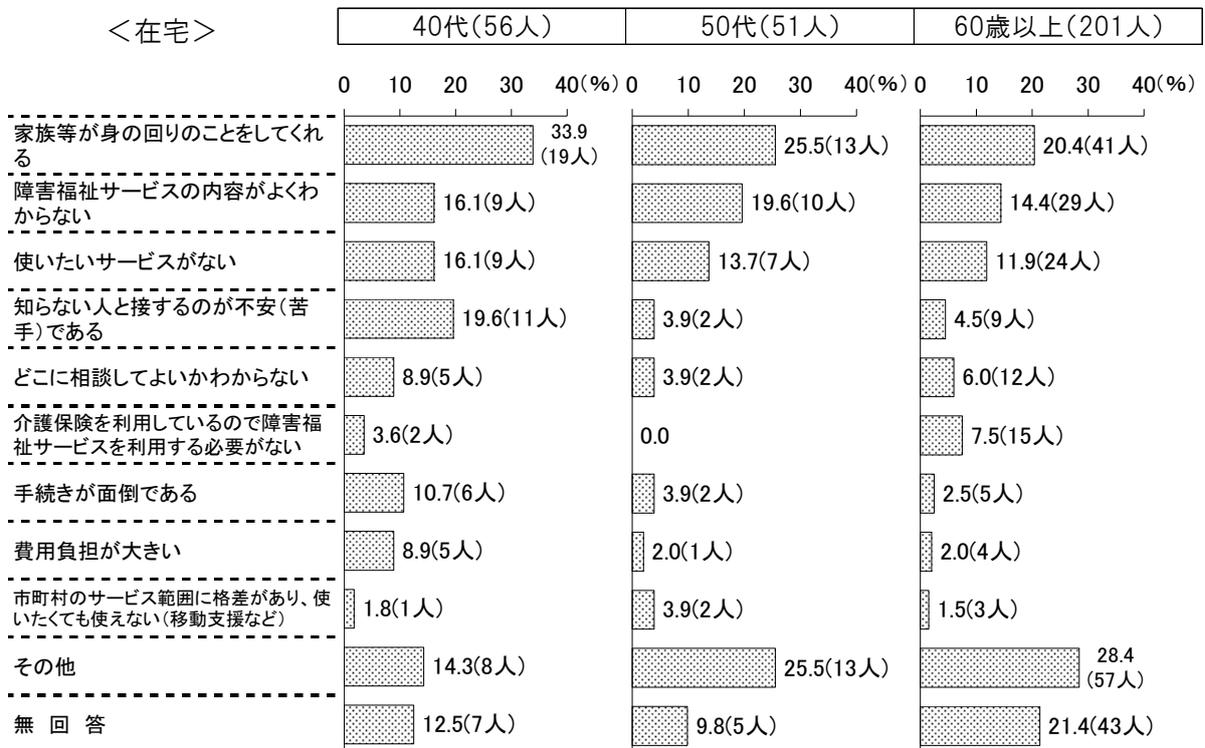
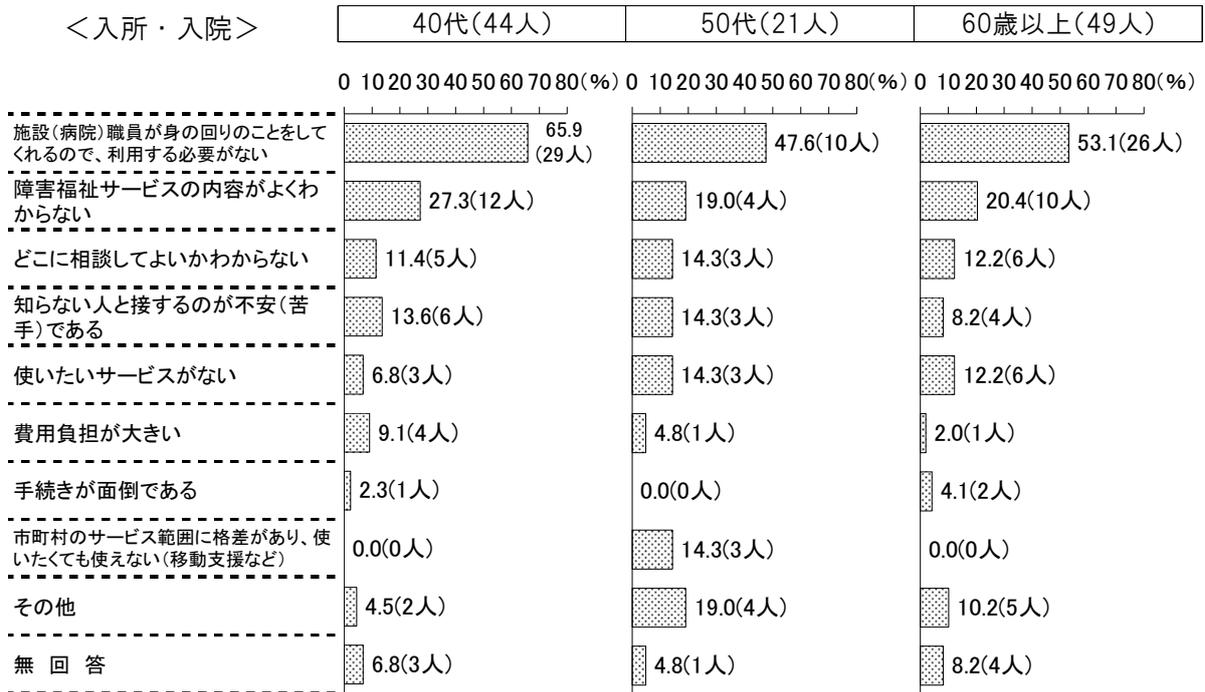
【年代・加齢】 大きな傾向の違いはみられない。

図表4-1-19



(※) の選択肢は、入所・入院している人の調査では省いている。

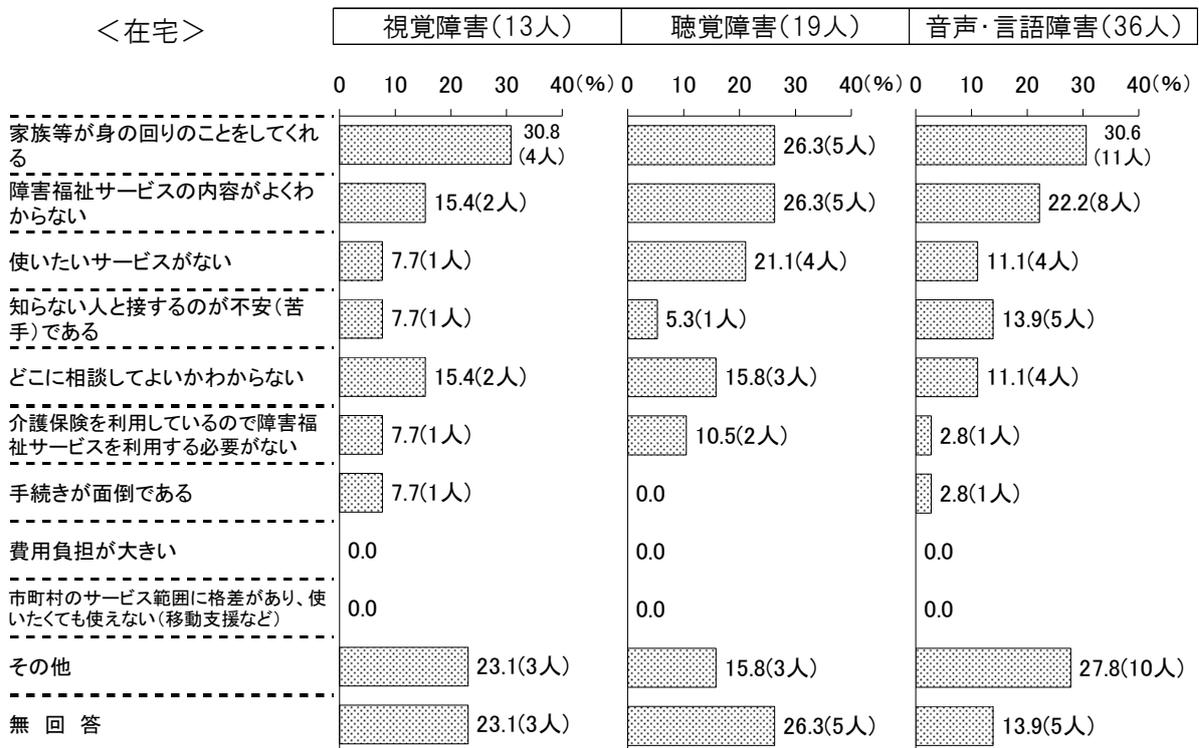
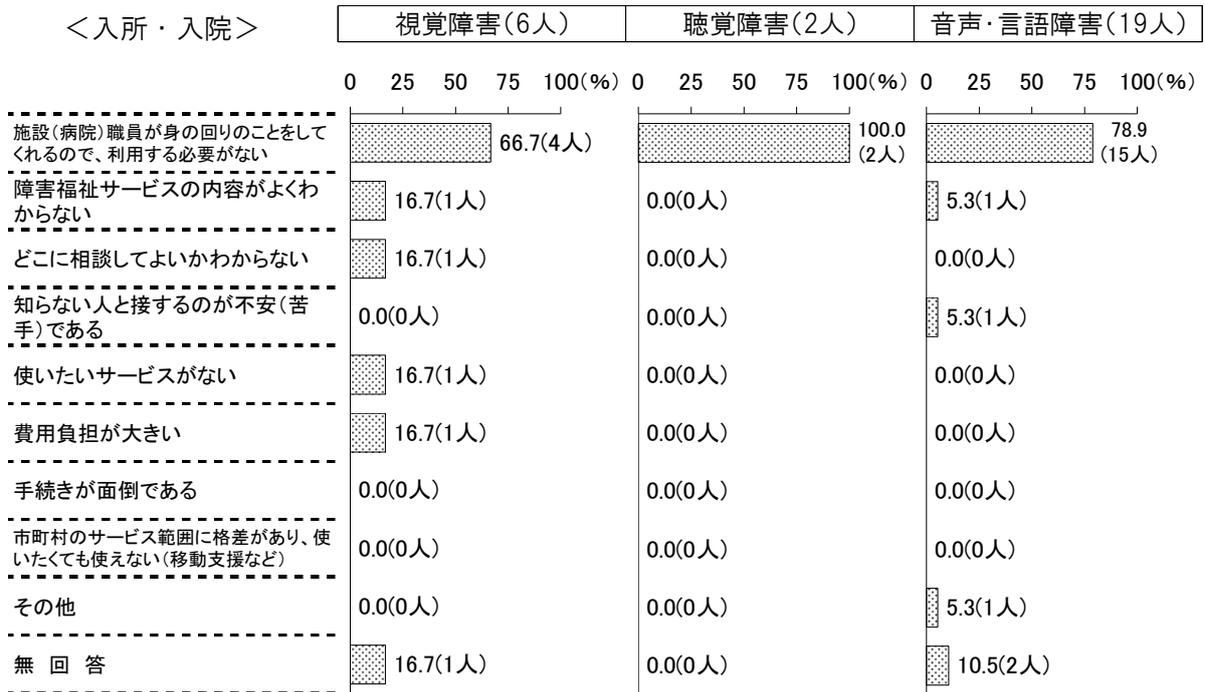
図表 4-1-20 障害福祉サービスを利用していない理由—年代別



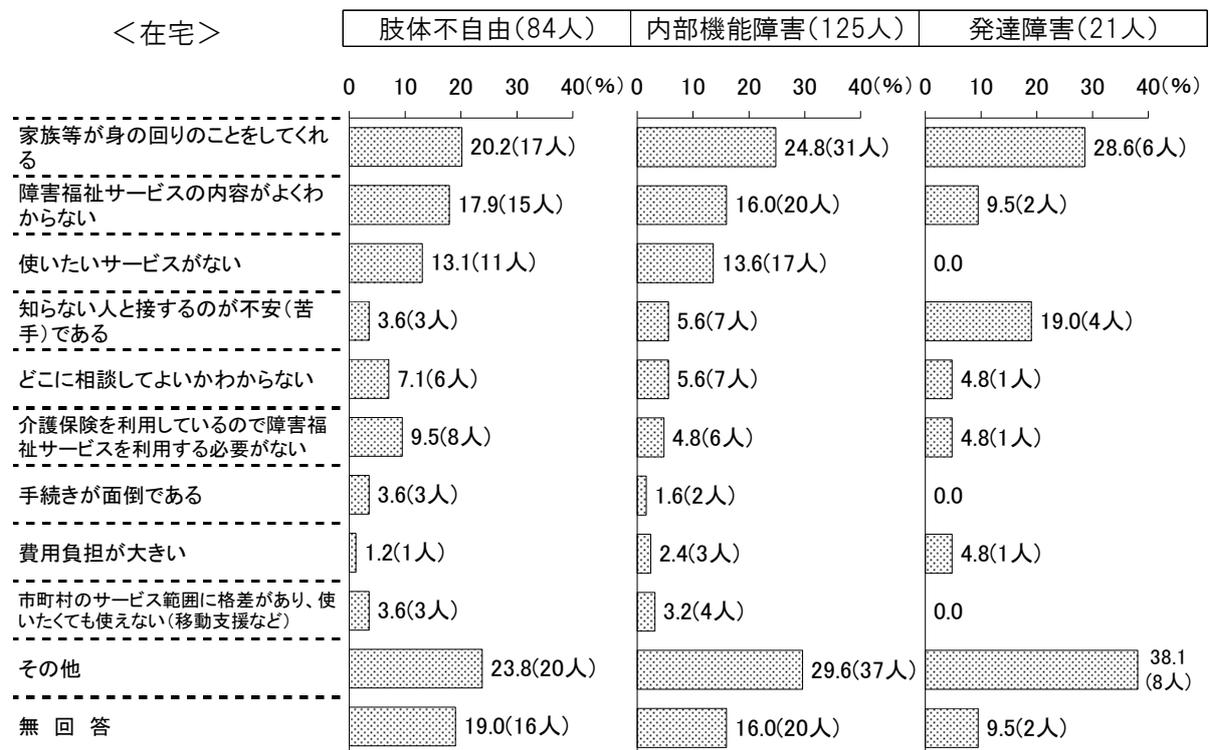
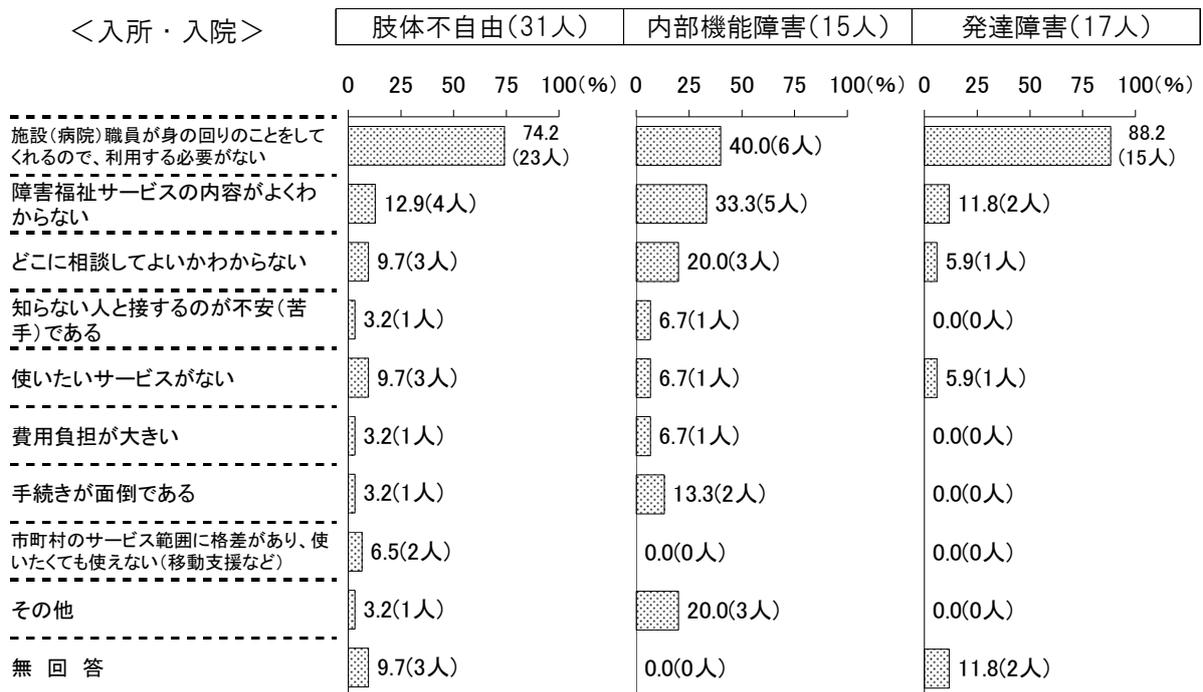
図表 4-1-21 障害福祉サービスを利用していない理由—障害者手帳種別



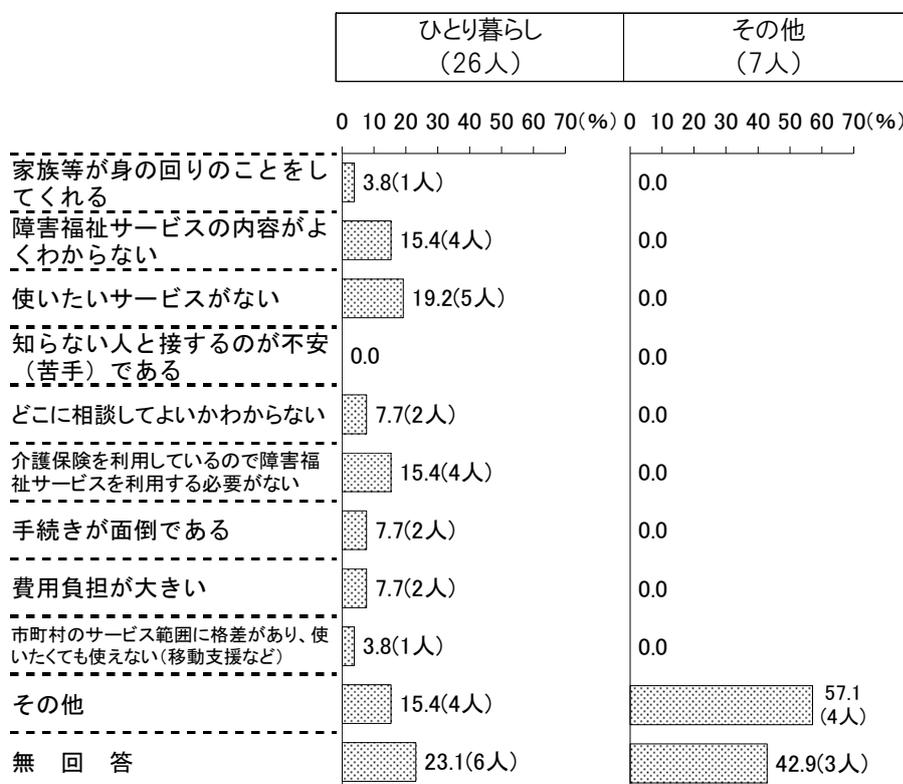
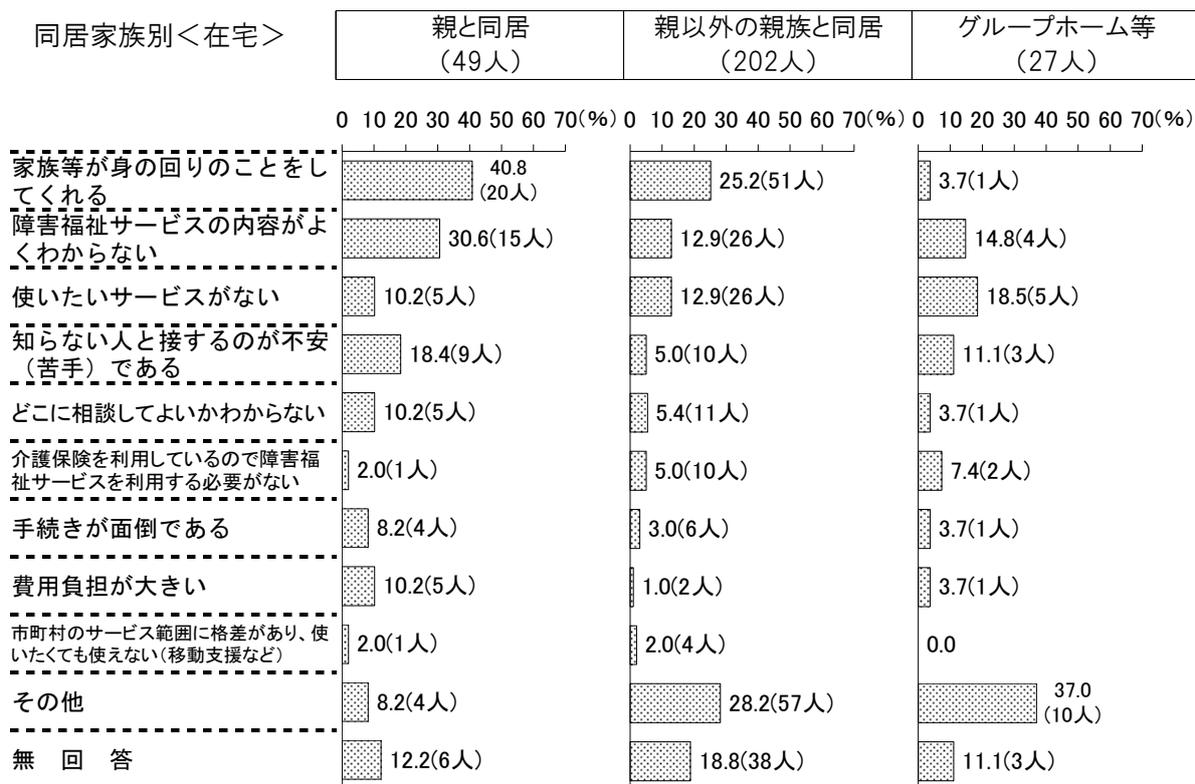
図表 4-1-22 障害福祉サービスを利用していない理由—障害種別（視覚障害、聴覚障害、音声・言語障害）



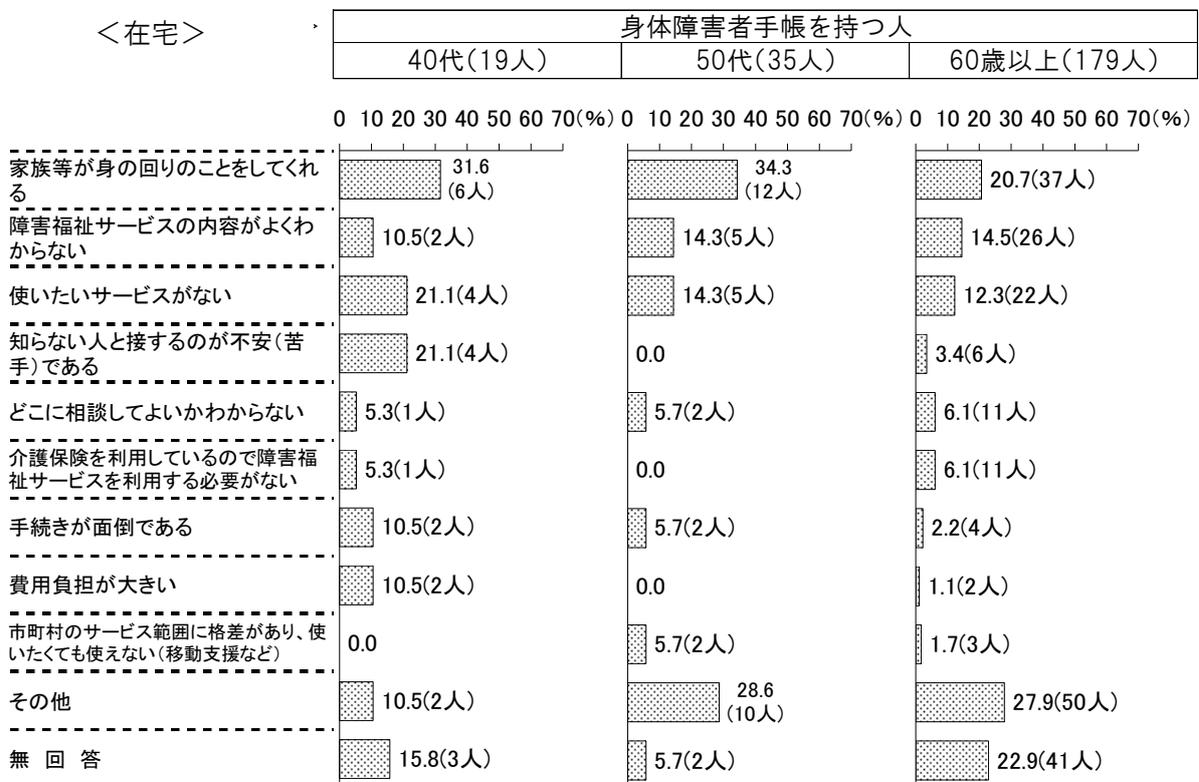
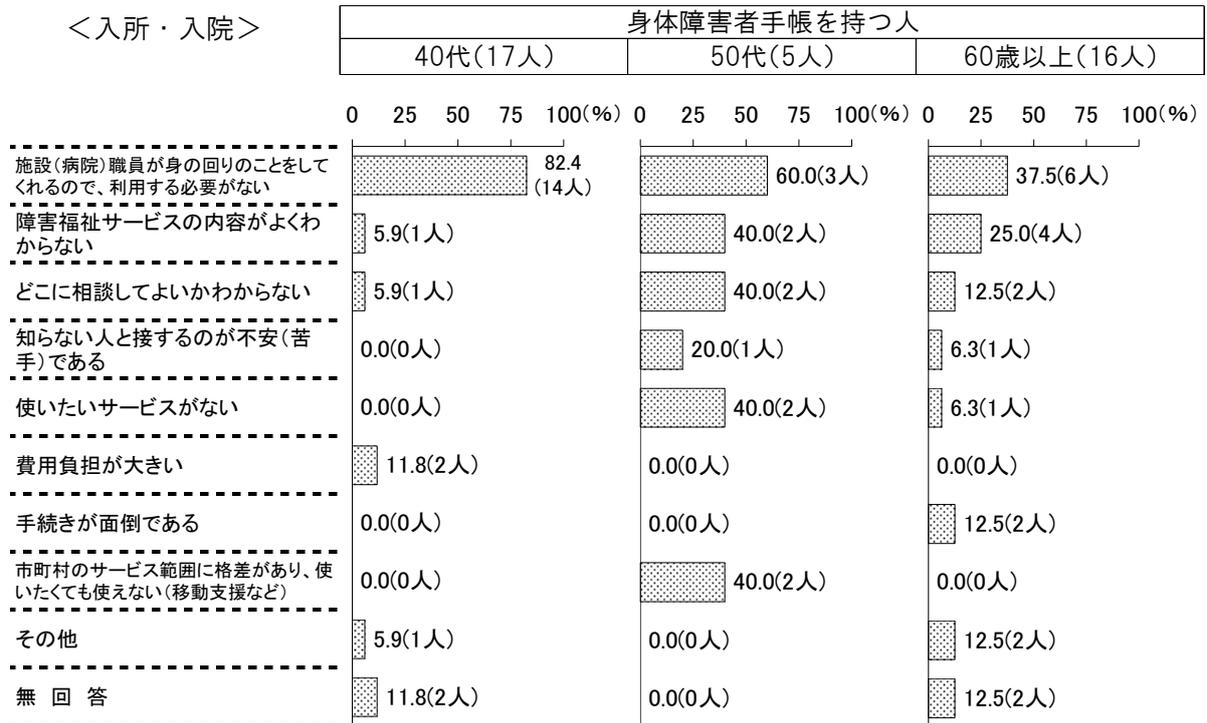
図表 4-1-23 障害福祉サービスを利用していない理由—障害種別(肢体不自由、内部機能障害、発達障害)



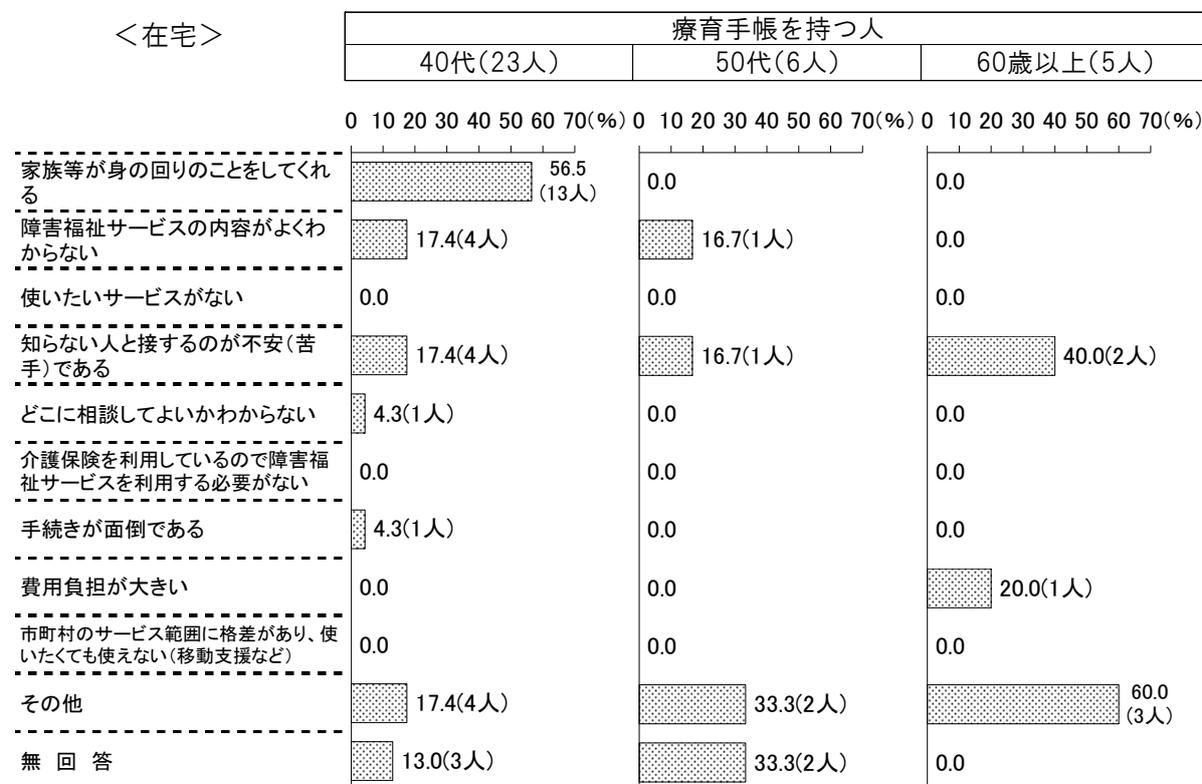
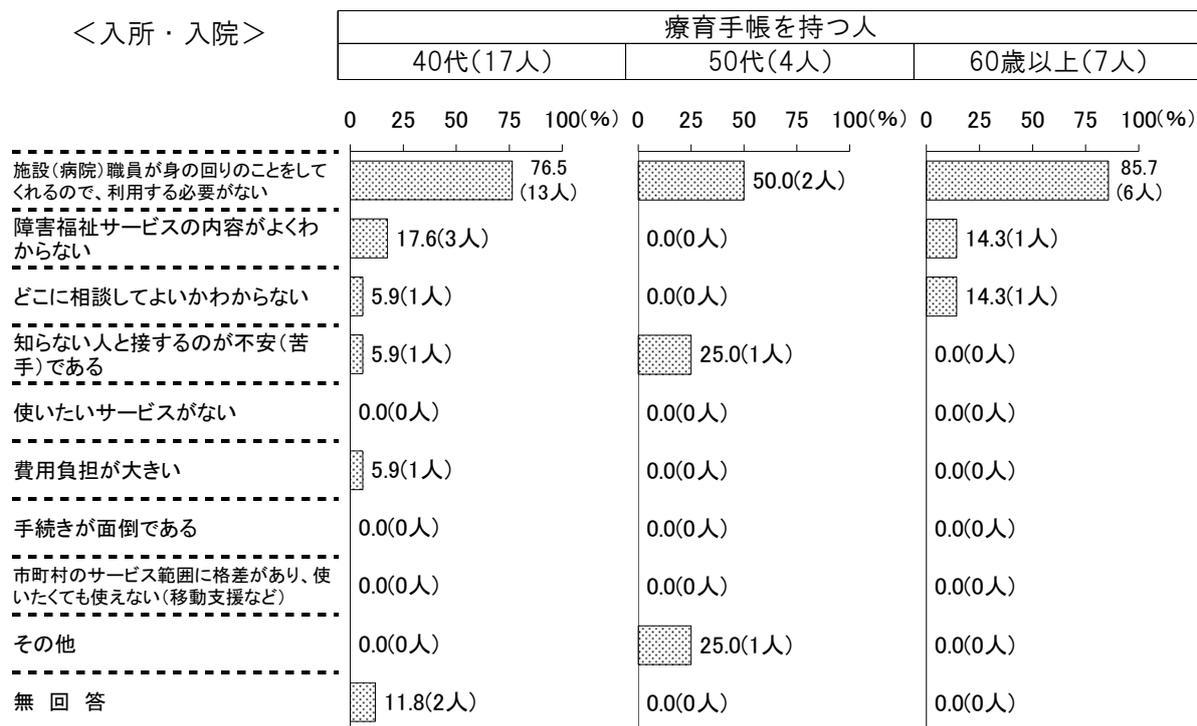
図表 4-1-24 障害福祉サービスを利用していない理由—同居家族別<在宅>



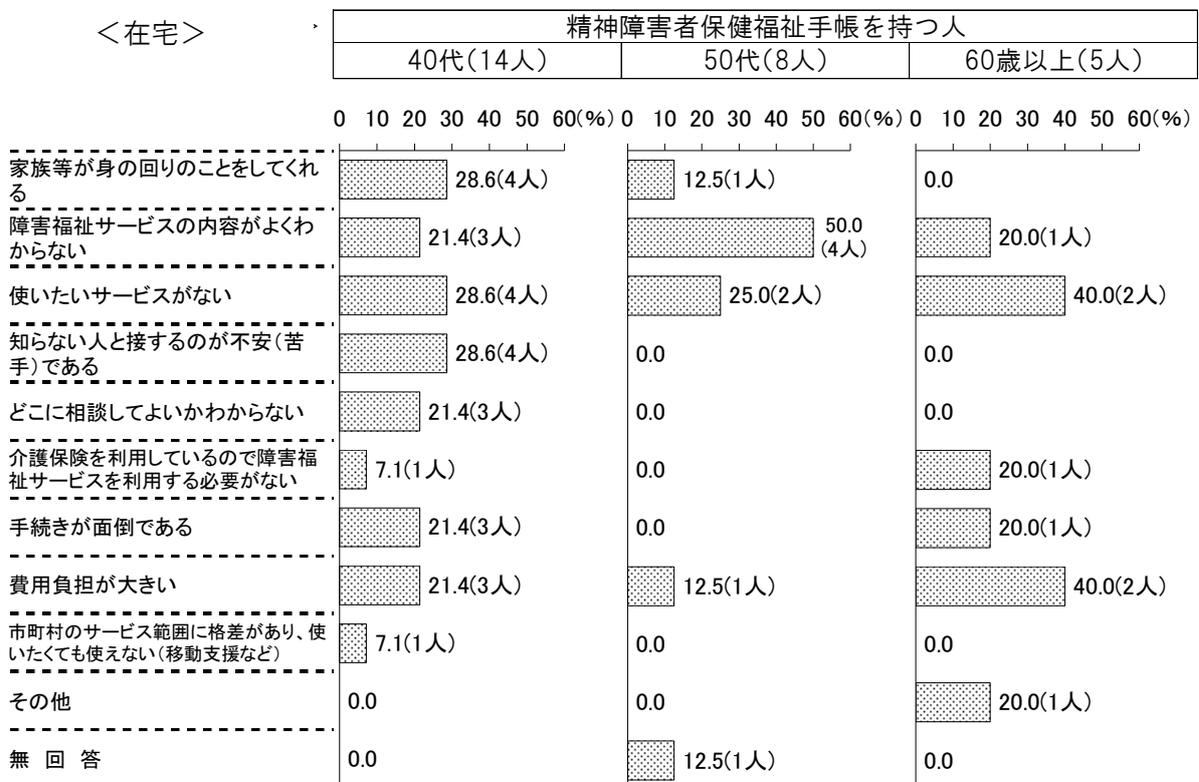
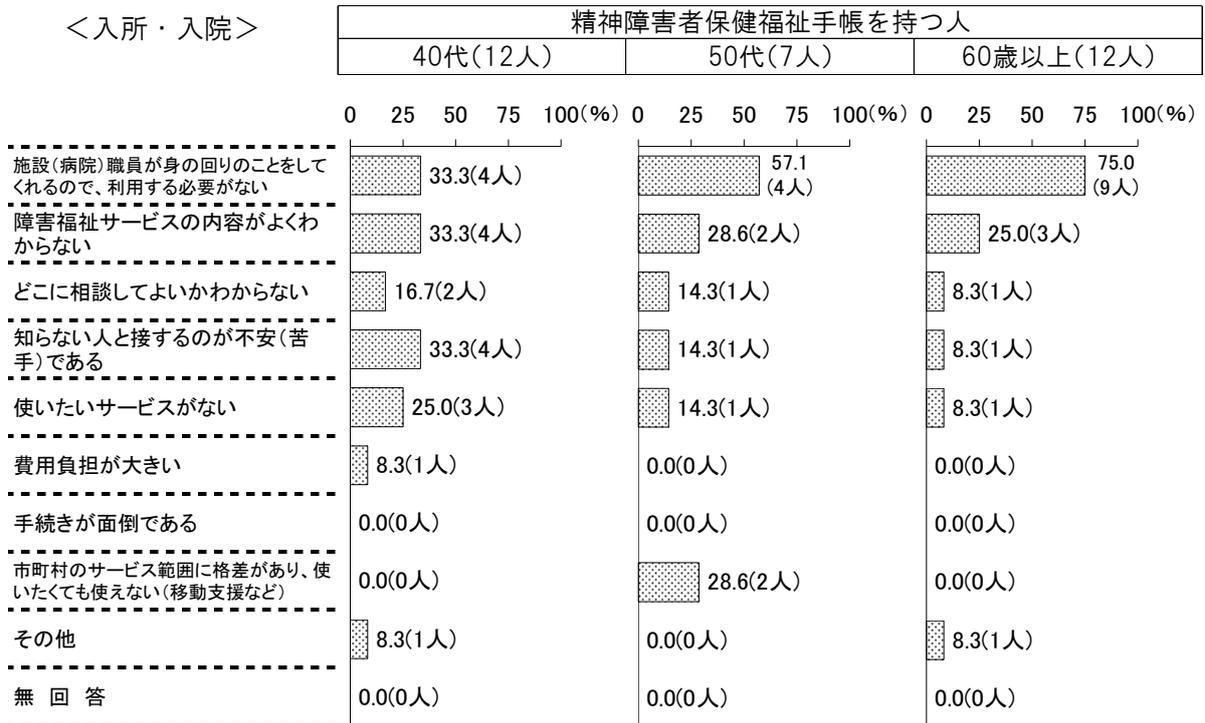
図表 4-1-25 障害福祉サービスを利用していない理由—障害者手帳種別・年代別(身体障害者手帳)



図表 4 - 1 - 26 障害福祉サービスを利用していない理由—障害者手帳種別・年代別（療育手帳）



図表 4 - 1 - 27 障害福祉サービスを利用していない理由—障害者手帳種別・年代別(精神障害者保健福祉手帳)



(2) <入所・入院問19><在宅問23>

65歳になると介護保険が基本的に優先適用になることについての不安

問. 基本的に65歳になると障害福祉サービスより介護保険が優先適用になります。このことに関して不安に思うことはありますか。あてはまるものすべてに○をしてください。
(既に介護保険サービスを利用している人は「困っていること」としてお答えください。)

【概要】

「現在利用している障害福祉サービスを継続して使えるかどうか」(入所・入院している人21.4%・在宅の人23.3%)と「利用者の負担が増加するのではないか」(入所・入院している人20.8%・在宅の人22.6%)はいずれも2割台となっている。

「特にない」は入所・入院している人で21.1%、在宅の人で27.3%となっている。

(図表4-2-1)

【障害者手帳種別】

知的障害・精神障害では「現在利用している障害福祉サービスを継続して使えるかどうか」が入所・在宅とも多い。身体障害では在宅で「特にない」(32.3%)が多いが、これを除けば「利用料の負担が増大するのではないか」が多い。(図表4-2-3)

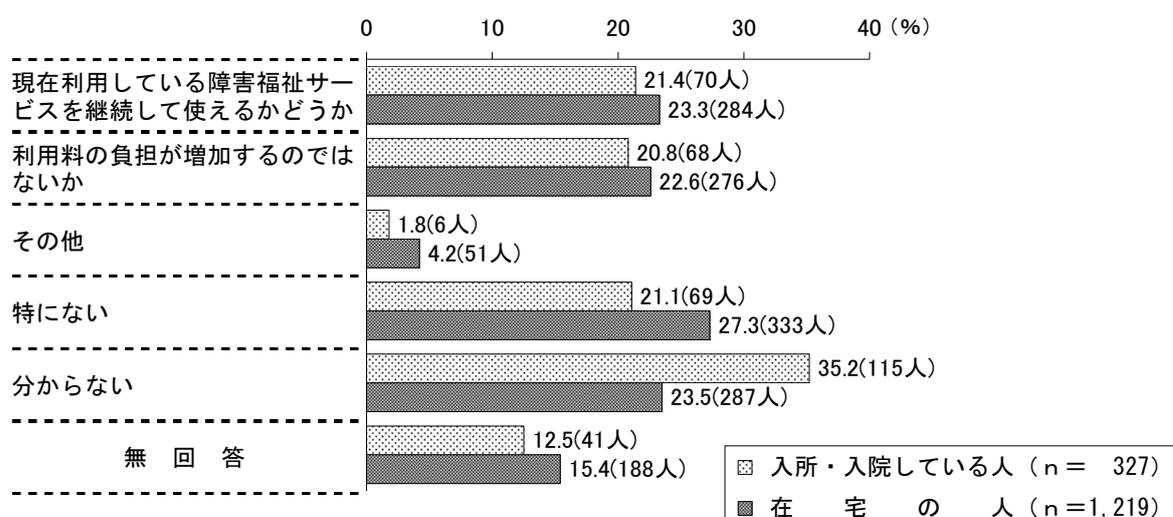
【年代・加齢】

年代が進むにつれ「特にない」の割合が高くなる。(図表4-2-2)

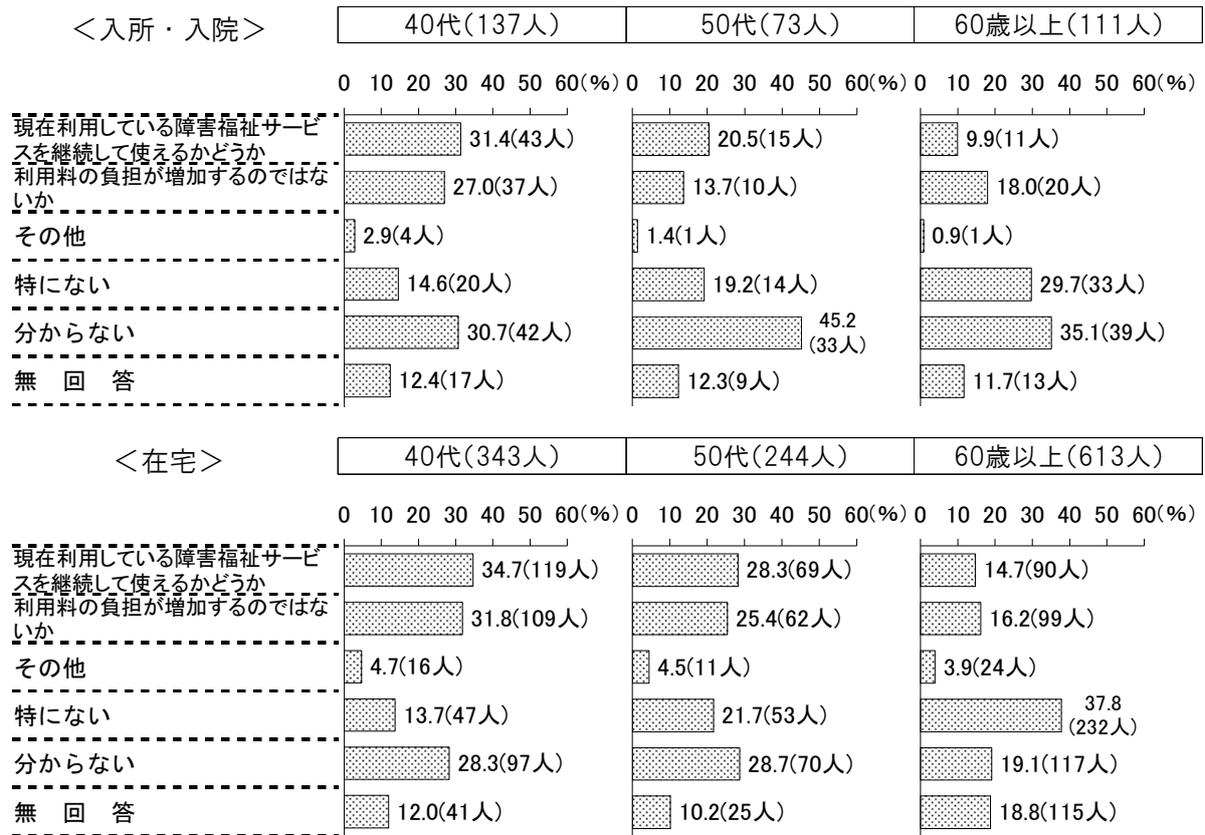
【その他】

視覚障害では、在宅で「現在利用している障害福祉サービスを継続して使えるかどうか」が47.3%、「利用者の負担が増加するのではないか」が45.1%と多くなっている。(図表4-2-4)

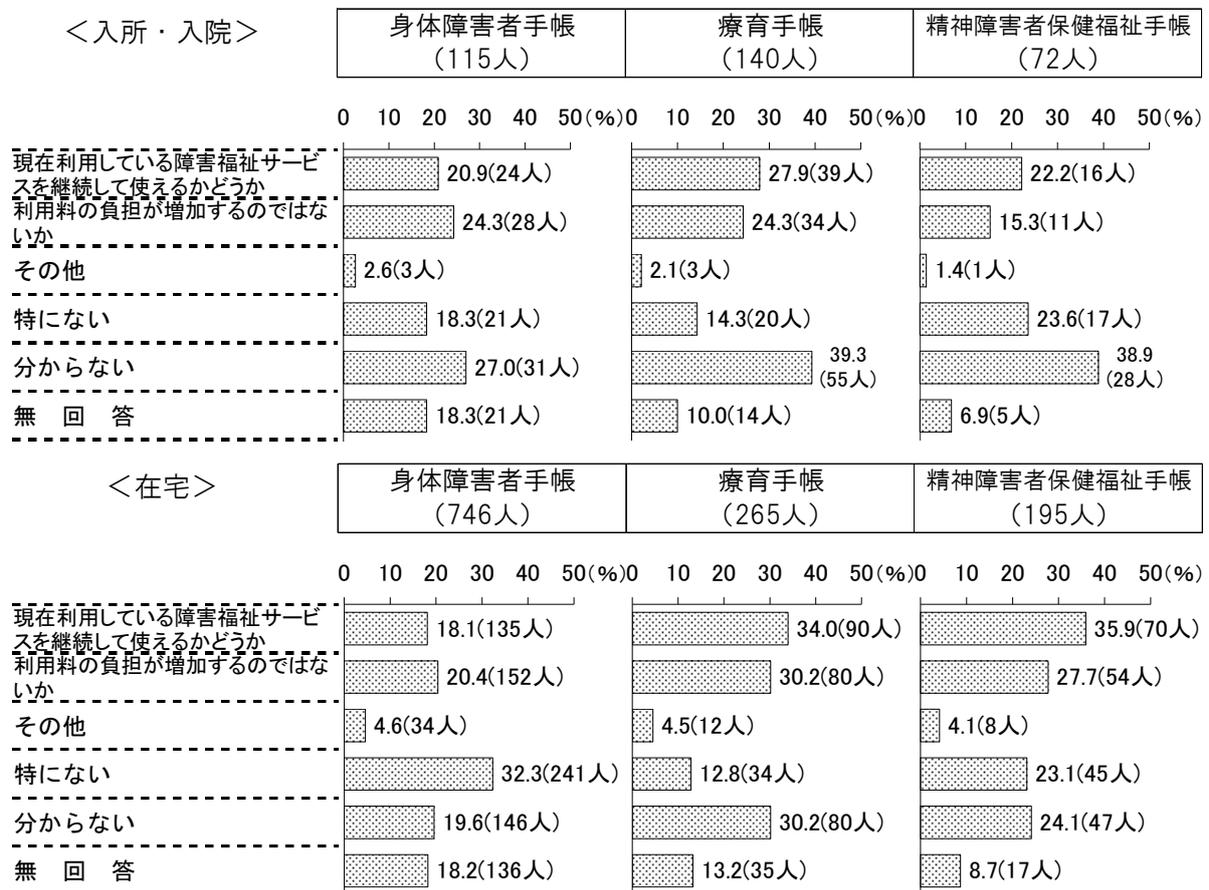
図表4-2-1



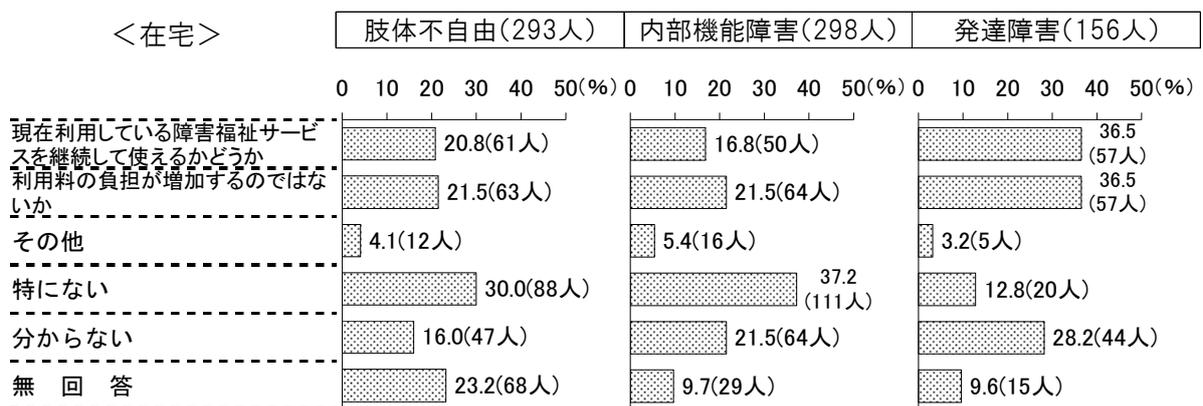
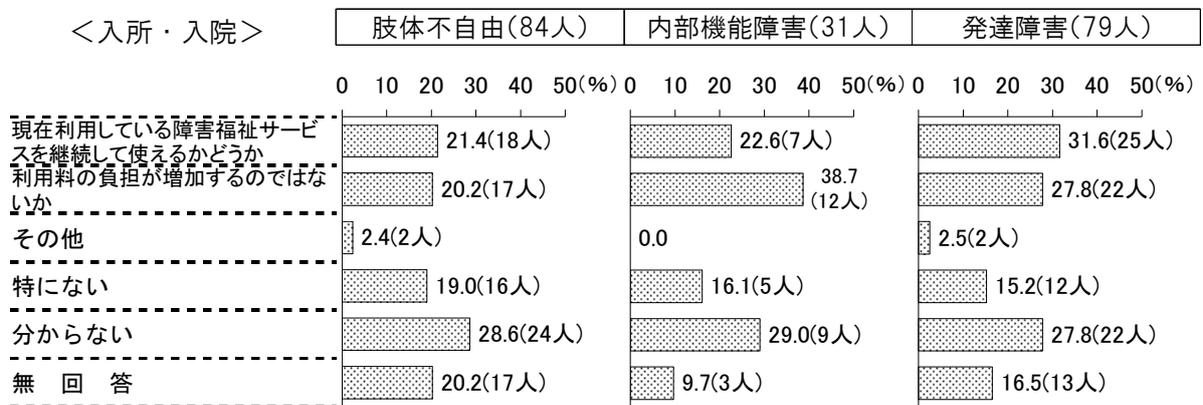
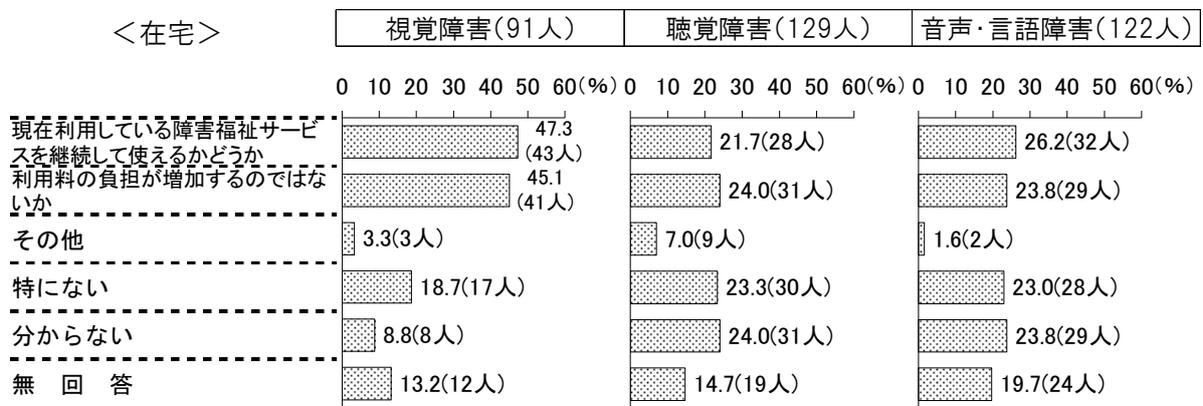
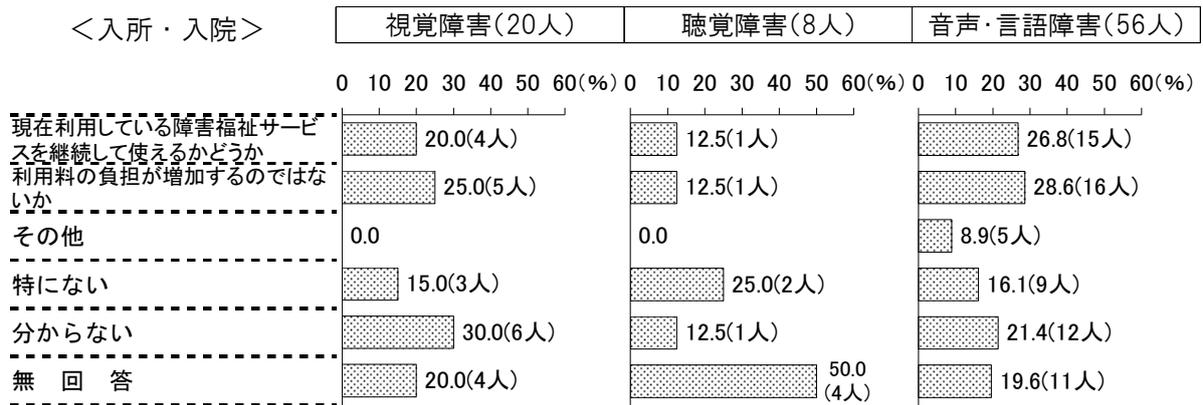
図表 4-2-2 65歳になると介護保険が基本的に優先適用になることについての不安一年代別



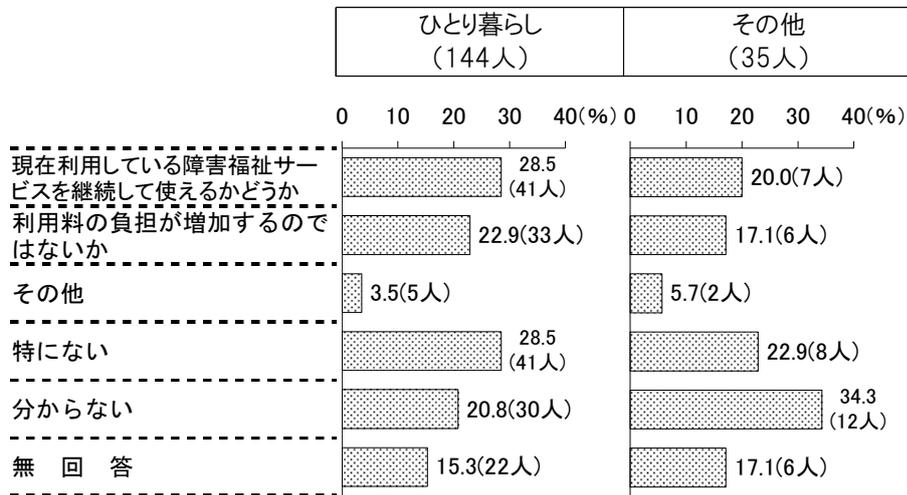
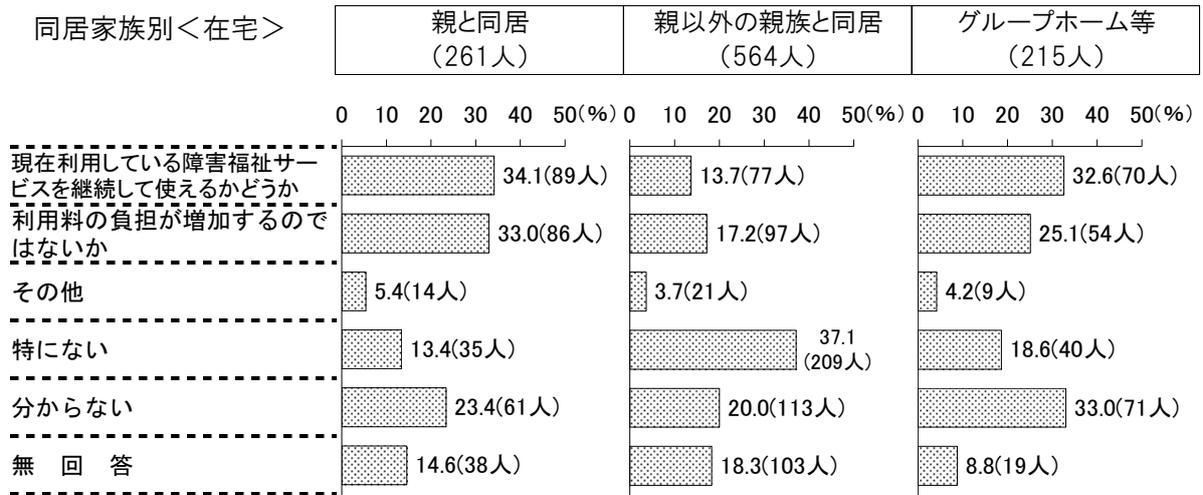
図表 4-2-3 65歳になると介護保険が基本的に優先適用になることについての不安－障害者手帳種別



図表 4-2-4 65歳になると介護保険が基本的に優先適用になることについての不安—障害種別



図表 4-2-5 65歳になると介護保険が基本的に優先適用になることについての不安－同居家族別



図表4-2-6 65歳になると介護保険が基本的に優先適用になることについての不安

—障害者手帳種別・年代別



図表 4-2-7 65歳になると介護保険が基本的に優先適用になることについての不安
 - 障害者手帳種別・年代別 (つづき)

